



# 心の糧

十二使徒評議員会補助

アルビン・R・ダイヤー



11月のこよみ

- 1日 1808年 第3代目大管長ジョン・テイラー生まる。
- 13日 1838年 ジョセフ・F・スミス大管長生まる。
- 17日 1964年 デビッド・O・マッケイ大管長によりオークランド神殿献堂さる。
- 22日 1856年 ヒーバー・J・グラント大管長生まる。
- 23日 1918年 ヒーバー・J・グラント教会の第7代目大管長として支持さる。
- 28日 1869年 ソルトレーク市でYWM I A組織さる。

**私**は謙遜と柔和の間には違いがあると信じている。柔和とは進んでへりくだる状態とすることができよう。予言者アルマはその違いを知っていたようである。アルマの言葉に注目してみよう。

「私はあなたたちが境遇からやむを得ずへりくだったからさいわいであると言ったが、神の道を聞いたから進んで真心からへりくだる者はなおさいわいであるとは思わないか。まことに、真心からへりくだって自分の罪を悔い改め、終りまで忍ぶ者は祝福を受ける。本当にこのような者は、きわめて貧しいためにやむを得ずへりくだる者よりも、ひときわ多く祝福を受ける。それであるから、へりくだることを強制されずに進んでへりくだる者はさいわいである。言葉をかえて言えば、心をかたくなにすることもなく、強いて神の道を説きすすめられなければこれを信じないと言うこともなく、進んで神の道を信じバプテスマを受ける者はさいわいである。」

(アルマ32：14—16)

宣教師の携える回復のメッセージにすぐさま応じる人はほとんどが善良で正直な心の持ち主である。そして靈的に本当の改宗をした人はさらに忠実な末日聖徒となるのである。

## — も く じ —

共に業を成す若者よ……………大管長	ジョセフ・フィールディング・スミス…	309
レーマン人と教会……………編集員	M・ダラス・バーネット…	311
誉れある血統……………十二使徒評議員	スペンサー・W・キンボール…	313
グアテマラの夜明け……………バーバラ・T・ジェイコブズ…		318
点をむすんでみましょう……………		323
ほんとうのナバホー族……………シェリー・ジョンソン…		324
質疑応答……………		327
神殿に関して知っておくべきこと……………エルレイ・L・クリスチャンセン…		329
生活を変える……………エドウィン・O・ハロルドセン…		332
交通のとだえた夜……………		334
罰からのがれること……………リチャード・L・エバンズ…		337

## 今月の表紙

今月の表紙は、エルドン・リンシュテンによる写真で、レーマン人の若人が教会のプログラムに参加している様子を表わしている。教会と世界のレーマン人に関して、3つの特別な記事がP. 311以降に載せられている。

### 聖徒の道

1971年11月20日発行  
 発行人兼編集人 ウォルターR. ビルス  
 発行所 東京都港区南麻布5-8-10  
 末日聖徒イエス・キリスト教会  
 電話(442) 7459  
 印刷所 太陽印刷工業株式会社  
 定価 100円  
 予約 一年間 1,000円  
 外国 4ドル50セント

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長による今月のメッセージは教会の若人に向けられているが、あらゆる年代の教会員にとっても有意義なものである。

# 共に業を成す 若者よ



ジョセフ・フィールディング・  
スミス大管長

**私** はあなたがたにこの大切なメッセージで何を語るべきか深く考えた。そこで私の個人的な体験をいくつか述べようと思う。そのほとんどは何年も前に起こったことである。その時期や時代はもう遠い過去のものであっても、それらはあなたがたが現在直面している経験や誘惑と共通するものがある。私はあなたがたにこれらの真理が人生においていかに大切かを知っていただきたいと希望している。

少年時代に、私はジュニーという馬を持っていた。ジュニーは、かつて私が出合ったうちで最も賢い動物であった。まるで人間のような能力を備えていた。ジュニーはうまやの扉にかけたひもをいつもはずしてしまうため、私はジュニーをうまやにつないでおくことができなかった。私はうまやの扉を半分開いて柱にたづなを結んでおいたものだったが、ジュニーはいとも簡単に鼻と歯を使ってたづなを持ち上げてはずし、牧場へ行くのである。

牧場には家畜用のおけに水を入れる水道の蛇口があったが、ジュニーは歯で蛇口をひねり、水を出し放しにしたものだった。私の父は私がジュニーを

うまやにつないでおくことができないため閉口していた。ジュニーは逃げて行ってしまふことはなかった。ただ蛇口をひねって、牧場や芝生の上、庭の中を歩き回るだけであった。私は真夜中に水道の水がほとぼしる音を聞き、やむをえず起きて、蛇口をしめ、ジュニーをうまやに入れることがたびたびあった。

私の父は馬の方が私よりも賢いようだと言った。ある日父はジュニーが外へ出られないように閉じ込めてしまうことにした。父は柱の上からかけていたたづなをとって、横にわたしてある棒の下の方にたづなを締め金でとめ、こう言った。「お嬢さん、今度は出られないでしょう。」父と私は家の方に向かって歩き始めた。ところが家に着かないうちに、ジュニーは外に出ていた。そして、歩いて行くと、またしても水道の蛇口をひねったのである。

そこで私はジュニーがおそらく私たちのどちらよりも頭が良いであろうと言った。私たちはどうしてもジュニーをうまやにつないでおくことができなかった。けれども、それはジュニーが悪いということではなかった。ジュ

ニーは何も悪いことをしていなかったからである。父はジュニーを売ったり交換したりしようとはしなかった。ジュニーは多くの良い性質を持っていたため、この小さな欠点を生み出したからである。

ジュニーはうまやを抜け出す技術にたけていたように、馬車をひく時も頼りがいのある馬であった。母は免許を持った助産婦であったため、これは大切なことであった。母が盆地のどこかでお産のために呼ばれるのは真夜中の時が多かったので私は起きてうまやにランタンを持って行き、ジュニーに馬具をつけなければならなかった。

当時私はわずか11、2歳であった。そのため、馬はおとなしくてどんな天候でも私と母を連れて盆地に行くことができるような強い馬でなければならなかった。しかし、私は理解できなかったことが一つあった。それは赤ん坊がなぜ夜中に生まれ、それも多くが冬生まれるのかということであった。

私は馬車の中で母を待つことがしばしばあった。そして年老いたやさしいジュニーと一緒にいることのできる間は私にとってすばらしい時であった。

この馬との経験は私にとって非常にためになった。なぜならば少年時代にジュニーを愛することと感謝することを学んだからである。ジュニーはわずかな悪い習慣こそあれ、すばらしい馬であった。人間もこれと同じである。完全な人はいない。だが私たちは天父のように完全になろうと努めているのである。私たちは人々のために人々を愛し、感謝する必要がある。

あなたがたが両親、教師、ワード部やステキ部の指導者、友人、兄弟、姉妹を評価する時、このことを頭に入れておく必要があると思われる。私はいつもこの教訓を心に留めてきた。すなわちいくつかの悪い習慣を改めさせようと努める傍、人々の良い点を見るようにしてきたのである。

のちに、私はある人々にとって本当に愛し、喜びとしているものを捨て去ることがいかにむずかしいかを知った。私はスポーツが好きで特に兄弟のデビッドとハンドボールをするのが好きだった。ある日、私は大汗をかき、顔を真っ赤にさせてハンドボールのコートから帰ってきた。すると、私のロッカーの近くに、私の友人で非教会員であるプラマー博士が立っており、私を見るとこう言った。「ジョセフ兄弟、ハンドボールをやめないと、何々氏のようにいつか床に倒れて死んでしまいますよ。」

私にとってやめるということは大変なことであった。むしろ毎日のようにハンドボールをしたかったのである。私は事務所の窓から外を見る時、決まって隣のデゼレト体育館をながめ、行ってゲームをしたいという気持ちに駆られたのである。しかし、私は決心を変えなかった。それから間もなくプラマー博士を訪れると、博士はこう言った。「ジョセフ兄弟、まだハンドボー

ルをしているのですか。」

「博士、あなたがやめるようにおっしゃった時から私はやめました。コートに行ったことは一度もありません。」と答えた。これは博士を非常に喜ばせたようであったが、私のチームメイトは大そう憤慨していた。そして、「あなたにきてもらわなくては困ります。フォーメーションが組めないではないですか。」

「申しわけない。しかし、もうやめたよ。」私は口で言う以上にゲームに出ることが好きだった。私はプレーに飢えていたが、私の年令から考えて良くないことを知ったのである。同時に、私はバプテスマを受ける以前に長年の間何かの活動や習慣を喜びとしていた改宗者にとってそれをやめることが、どれほどむずかしいものであるかについて、いささか理解できるようになった。

私は自分の経験から、あなたがたが何かを変えることを望む時、心から望む時、それはできるということを知った。私たちは自らの良心と聖典から何によって生きるべきかを知っている。すなわち永遠の幸福と進歩のためにどのような習慣を変えていかなければならないか教えられている。

古代の偉大な予言者の1人であるイザヤは私たちの時代を見て、この末日の状態を書きしるした。今やこの近代において、イザヤの予言が成就されつつある。

教会本部までの道を行き来している時に、私はつつましい服装をしていない女性を目にしている。彼女たちの多くは「シオンの娘」である。私は時代と流行が変わることをわきまえている。これを見ていると、青年時代ソルトレーク・ステキ学院、後の末日聖徒大学に通っていた時をいまなお思い出

す。

女学生はブラウスを着、くるぶしまでのスカートをはいて、頭から足の先まできちんとした服装をしていた。また私は若い男女の学生がグループでシティクリーク峡谷までの旅行に行った時に起こった出来事をおぼえている。ハイキングの途中で、女学生の1人が足をすべらせ、枝にスカートをひっかけて、ひざまで足が見えるほど破いてしまった。その女学生はどうしてよいかわからなくなり、ひとりで家に帰りたいと言った。何時間もかかってようやく他の女学生がなだめ、事故のことを忘れるように説き伏せた。

現代は当時に比較すれば、ひざを見せることはあたりまえになっているが私はひざを見せる服を着ている女性を悪いと言っているのではない。私たちがいだけべき気持ちを述べようとしているのである。

つつしみと適切さの原則は昔も今日も同じである。教会幹部が表明している標準は、男女共、つつしみのある服装をすべきであるということである。民は常に適切なふるまいとつつしみを教えられている。

私は「シオンの娘」がつつしみを忘れた服装をしている時、それは「シオンの娘」にとって、不名誉なことであると考えている。さらに、これは女性と同様男性についても述べることができる。主は古代イスラエルの民に対して、男も女も自らの体をおおい、常に純潔の律法を守るよう戒められた。

私はつつしみと純潔を願っている。また男女すべての教会員に純潔であるよう、自らの生活において清くあるよう、主が与えられた誓約と戒めに従うよう願っている。

私は生涯を通じてのこれらの小さな出来事から、いくつかの真理の原則、

インディアンのセミナリーは小学校から高校までの若者が宗教的な経験と訓練を得られるように設けられている。

私たちが完成への道を歩むにあたり有益な主の知恵のあらわれを学んだ。私たちがここにいる目的は天におけると同じように、御父のみこころを行なうことであり、地において義の業を行なうことであり、邪悪を破り、不完全さを克服して聖徒となり、地における主の僕となることである。

私は年若き時に愛すること、他人を裁かず自らの欠点を常に克服するよう努めることを学んだ。またハンドボールをやめた時に、長い間親しんだ習慣をやめる時の人々の苦しみを知った。

ジュニーの悪い習慣がその価値をいくらか下げたように、ささいなことのようと思われるつつしみのない衣服を着ることが、教会の若い男女から何かを奪っているのである。

私たちがいかに天の御父の前に帰ろうとしていても、こういったことが、私たちが従って生活すべき永遠の原則を守らせにくくするのである。

私はあなたがたに証する。私は神が生きてましますことを知っている。イエス・キリストが御父の生みたまひし肉における唯一の御子であることを知っている。私は予言者ジョセフ・スミスとその後継者の使命に関して完全な信仰を持っている。

私は自分が生きていることを知っているように、私たちがイエス・キリストの不滅の福音を有していることを知っている。もし私がこれを知っていないとすれば、私はここにいることを望まないであろうし、この業に何のかかわりも持たないであろう。しかし、私は体のすみずみでこれを知っている。神が私にこれを啓示したもうたからである。願わくは、主が私たちすべてを祝福したもうように、へりくだって祈り奉る。アーメン。

## レーマン人 と教会

編集員

M・ガラス・バーネット

1947年の晩秋、ユタ州リッチフィールドのてんさい畑は雪でおおわれていた。この畑で働いていたインディアンたちはほとんどこの谷を去っていた。冷たく凍りついた土の中からてんさいを掘るために残っていた数少ない人々の中に16才になるヘレンという名の少女がいた。この少女はてんさいを掘りたくてここにとどまっていたのではなく、故郷に帰ってしまったら好きな教育が受けられないと思ってここにとどまっていたのである。

ヘレンはリッチフィールドに住むある家族に、この町にとどまり学校に通いたないので、裏庭にテントを張るのを許してくれるように頼んだ。それはゴールデン・ブキャナン<sup>1</sup>がインディアンのおかれている状況について話したステーキ部大会のすぐ後だった。ヘレン家族はこの大会に出席したのである。

これら2つの出来事に関する問題は十二使徒評議員であるスペンサー・W・キンボール長老がリッチフィールドを訪れた時、彼から助言してもらうこと



上：レーマン人に福音をのべ伝えている  
宣教師の多くはレーマン人である。

下：インディアン学生紹介プログラムで  
は、若い人々が学業のために育ての親  
と生活する前に健康診断を受ける。



で決着がつき、その後ヘレンはブキャナン家に引き取られることになった。

翌年の秋には9人のインディアンの若者が末日聖徒の家庭に引き取られた。インディアン学生紹介プログラムへと発展したことの起こりはこれであった。そしてそれはその後ひきとられた5千人以上のレーマン人学生に影響を及ぼすこととなったのである。このプログラムはさらに教会の会員にレーマン人とレーマン人に予言されていた約束について新たに思い起こさせるきっかけとなった。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、インディアンと呼ばれるアメリカ大陸に住む人々また、大太平洋上の島々に住む人々を神学的にまた哲学的に理解するにあたって特異な概念をもっている。この人々はヤコブの家の残りの子孫（Ⅲ ニューファイ21：2）であり、リーハイの子孫すなわち紀元前600年頃エルサレムからアメリカ大陸に来たイスラエル人なのである。古代の民が受けた啓示の記録、すなわちモルモン経にはレーマン人に対する大いなる約束が見い出される。

1830年、モルモン経を翻訳し出版したジョセフ・スミスは教会の設立当初レーマン人に福音が述べ伝えられるということ、すなわち予言されていた約束を再確認したのである。その日から今日に至るまで福音はレーマン人として知られている人々にのべ伝えられている。

ジョセフ・スミスにより初期の伝道活動が始められ、聖徒たちがユタ州に定住した時、ブリガム・ヤングがインディアンと交友を保ち、またリッチフィールドの少女に助けの手が伸べられて以来、インディアンを支持する幅広いプログラムが社会的にも神学的に

もすすめられているのである。

今日、教会はいまだかつてなかった程、レーマン人に福音をのべ伝え、宗教的な教育ならびに非宗教的な事柄を提供し、この偉大な人々の経済的成長の仲立ちとなるように努力しているのである。

紹介プログラムの主な目的は、インディアンの学生に自分自身についてより正しい認識を持たせることであってインディアンの学生を白人のようにすることではないとこのプログラムを担当する管理者たちは考えている。さらに、当然のことながら教会全体にわたって活躍するこのような若い人々によって白人の間にある偏見という障壁は打ち砕かれているのである。

太平洋地域やラテンアメリカに設立されている教会の学校がこれらの地域に住む末日聖徒たちの生活に対して霊的、社会的に貢献しているということは、中央のステーク部に住む会員にとって理解しがたいことである。

レーマン人のためのプログラムについて言えることのうち最も大切なことは、このようなプログラムに参加するレーマン人が同胞の間であって指導性と力とを伸ばしているということである。イエス・キリストの福音は人間の持つ可能性を広げる。末日聖徒のレーマン人ほどこのことを端的に表わしている民はいないのである。

また一方、教会の中でレーマン人ではない人々の間にあった偏見や、白人が上でレーマン人がそれ以下であるといった世襲的統治のなごりは次第に消え去りつつあるのである。

注1、ゴールデン・ブキャナン—1948年に教会インディアン・コーディネーターを務め、1951年、南西インディアン伝道部を管理した。

# 誉れある血統

十二使徒評議員会会長代理

スペンサー・W・キンボール長老

この記事は1971年4月24日、ソルトレーク市で開催されたレーマン人のユース・コンファレンスで話された演説から取ったものである。ナバホ一族評議員会の会長であるピーター・マクドナルド氏もこの大会で話をした。はじめの部分は彼のことについてである。

私はマクドナルド氏が自分は「レーマン人」とであると話されるのを聞いてうれしく思った。私たちはマクドナルド氏がレーマン人であることをずっと以前から知っていたが、そのことを言うとは思わなかった。彼のおかげで、私たちの多くはインディアンおよび他種族との混血インディアンを含むレーマン人であると言うであろう。この私もあるインディアン部族の養子になり、インディアンの名前が付けられている。私は事務所を訪れる人々に誇りをもってレーマン人は救い主の降誕に先立つ600年前エルサレムを出て家族と共に荒れ狂う海を渡りアメリカ大陸に上陸した、かのリーハイの子孫であると話している。リーハイとその家族は北米、南米、中米に住むあらゆる種族のインディアンとメスティーソの祖先であり、また海の島々、すなわちインディアンの歴史の中期頃、自らの手で造った船に乗りアメリカ大陸を離れて島々に渡ったインディアンたちの祖先である。

モルモン経をこの世にもたらしたジョセフ・スミスへの啓示があるまでは、だれもこれらの移住者については知らなかった。それ以前、このことはわからなかったのだが、今やこの疑問は完全に明らかにされたのである。今日レーマン人の人口は6千万人にのぼる。彼らはチエラ・デル・フェゴからアラスカ最北端のパロー岬にいたるまでアメリカの全土に住んでおり、またハワイから南方の南ニュージーランドまでの島々にも住んでいる。

啓示と金版に書かれ丘に埋蔵されていたレーマン人の歴史である偉大なモルモン経とのゆえに、教会

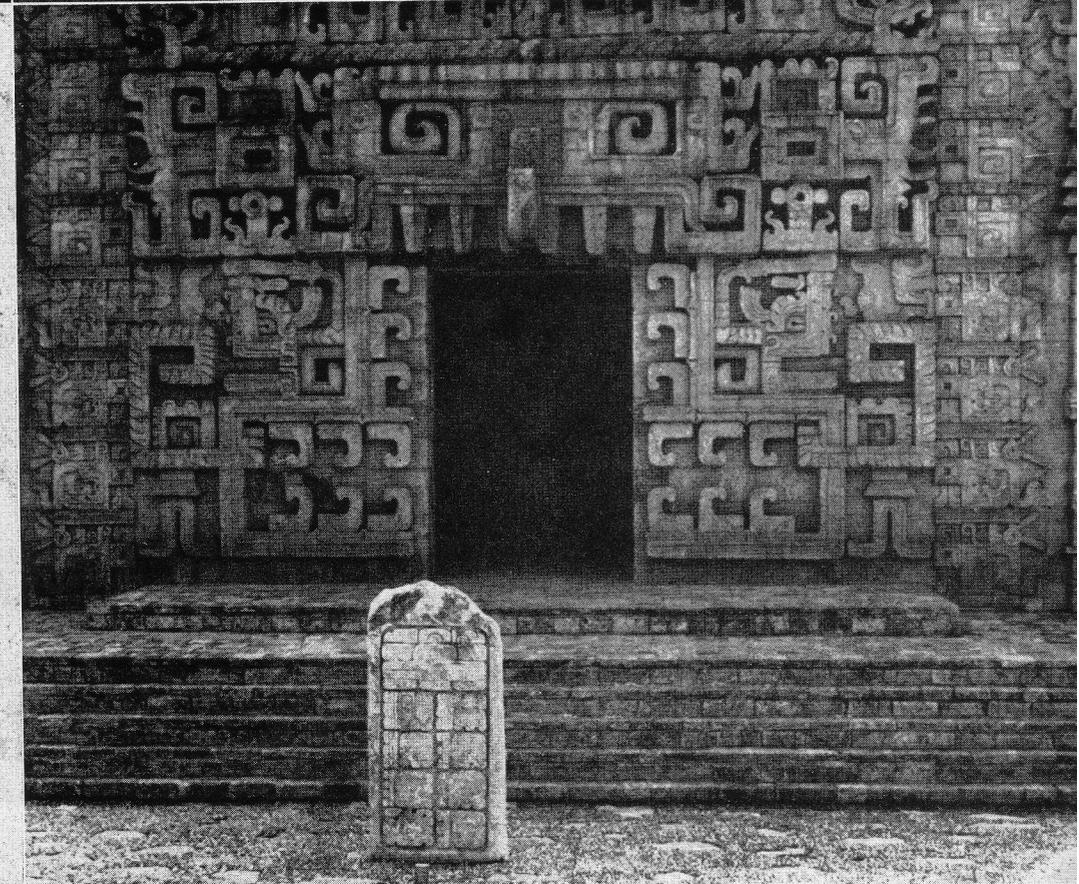
はすべてのレーマン人に深い関心を寄せている。予言者ジョセフ・スミスによる翻訳は、救い主の降誕600年前から降誕後400年までの1000年にわたる連続した歴史、すなわちこの大陸に住んでいた偉大な民の歴史を明らかにしたのである。その後1400年にレーマン人たちは高度な文化の多くを失ってしまった。そして1492年にコロンブスがこの地でレーマン人を発見した時、この強大な民の子孫はコロンブスによってインディアンと呼ばれたのである。

レーマン人という言葉には、あらゆる種族のインディアンおよびその混血が含まれる。すなわち、スー族、アパッチ族、モーホーク族、ナバホ一族、その他の部族もまたポリネシア人、グアテマラ人、ペルー人もレーマン人である。レーマン人は偉大な民の大きな集団なのである。

教会はインディアンとあらゆるレーマン人に対していつも非常に大きな関心を払ってきた。1845年初めに、教会は次のように宣言を出した。「やがてシオンの息子、娘たちは森に住む子供たち（インディアン）を教育するために自分の時間の一部を費やすように望まれるであろう。なぜなら、インディアンたちには福音を教えるのみでなく、市民生活をする上での根本的な事柄を教え、教育を施さなければならないからである。彼らには衣類と食物を与え、原則を教え、徳、謙遜、習慣、装い、音楽、または花婿の到来に備えるイスラエルとヨセフの忠実なる家の息子、娘としてふさわしく洗練し、清め、品位を高め、栄光を与えらると思われる。その他あらゆる事柄を教えなければならない。」（パーカー・プラット、ロビソン編「パーレー・パーカー・プラット書簡」P.5）

私たちがレーマン人に対して人道主義的立場以外で関心をいただいている理由がここにある。

およそ1500年前、予言者モルモンは「私の兄弟たちがまた再び神を知り……再び喜ばれる人となるように私は兄弟たちのため神に祈る。」（モルモン言1



：8）と言っている。この時すでに彼らは信仰生活からはなれており、キリストの贖いのことも忘れていた。彼らは再び喜ばしい民となるために神のもとへ帰らなければならないのである。

私たちがこのような予言が実現されてすばらしい祝福の喜びを受けることができるのは、彼らの祖先と神のおかげである。レーマン人の予言者を含む古代の予言者たちは何世紀もの間、自分たちの子孫に関心を持っていた。そこで、予言者たちは子孫の贖いのために昼夜祈り願ったのである。レーマン人の記録者と予言者たちの長い祈りが答えられて、1820年にこの地上に永遠の福音が回復されたのである。

予言者はいつもレーマン人に関心をいただいていた。モロナイはニーファイの民が全部殺された時、この大陸で生き残ったただひとりのニーファイ人である。次の聖句はモロナイが記録を丘に隠す前に書いたものである。「……今僅のこをつけ加えて記す。私はこれが主のみことろによっておそらく将来いつか私の同胞であるレーマン人の役に立つために記すのである。」（モロナイ1：4）

そして、現在レーマン人に関して私たちに与えられている啓示の1つに次のようなものがある。「而して見よ、すべてこの業の残りの部分は、誠にわが福音の中わが聖なる予言者およびわが弟子たちのこの代の人々に表されんことを祈りの中に願ひしものをすべて載せたり。」（教義と聖約10：46）おそらく、これはまだ翻訳されていないモルモン経のことについて言っているのであり、この部分はいつの日か明らかにされるであろう。私が感銘を受けている点は古代の予言者と現代の予言者がレーマン人に非常に関心をいただけてきたこと、神から離れ去っていたこれらの人々が受ける資格のあらゆる善きものを享受するために連れもどされるよう、主が福音をもたらされることを長年にわたって絶えず続けられてきた予言者の祈りである。

100年以上前に教会が組織された時、予言者たちはまず最初にレーマン人に関心を寄せた。初めたった12人だったモルモンが100人となり、1,000人となった。世界中に教会が2,3千しかなかった頃、私たちはすでにインディアンと共に働いていた。ジョセフ・スミス自身も川を渡り、話を聞こうと集まったインディアンの酋長たちに福音を教えた。

予言者ジョセフに与えられた啓示に次のようなものがある。「されど主の大いなる日来る前に、ヤコブは荒野に栄えレーマン人は薔薇の如く華さくべし。シオンは諸々の丘の山の上に栄えて諸々の山の

上に悦び、彼らはわが指し示したる所に寄り集らん。」（教義と聖約49：24—25）

このような約束を与えられている今日、今世紀とりわけ過去10年ないし20年の間に行なわれた業に私たちは大きく目を見開いている。今日、教会にはたくさんレーマン人の指導者がいる。たとえば、島の総人口の20パーセントが教会の会員であるトンガには3つの大きなステーク部がある。このうち2つは完全にレーマン人が管理しており、他の1つもほとんどレーマン人の手によって運営されている。現在サモアには3つのステーク部があり、また、小さなサモア諸島にもこれからもう1つのステーク部ができるはずである。レーマン人の指導者がいるステーク部がさらに4つあることになる。

メキシコシティには、メキシコ人の指導者すなわちレーマン人の指導者がいるシオンのステーク部が3つある。1,2の職を除いて、ステーク部長、監督、高等評議員、補助組織の指導者はみんなレーマン人である。メキシコの都市モンテレイ、グアテマラ、リマ、ニュージーランドその他の国々にも、ふさわしいレーマン人指導者をもつシオンのステーク部がある。

これはかつて予言者により予言されていたことが文字通り成就していることであり、偉大な変化である。12年前には、世界中のどこにもレーマン人のステーク部はなかった。レーマン人の監督もいなかったし、もちろんレーマン人のステーク部長もいなかった。わずか数年のうちに、これらの業が行なわれてきたのである。時代の流れを見通しておられるイエスは次のように語られたのである。すなわち、「かように神の命令はこれをふみ行なわなければならないことがわかる。もしも世の人々が神の命令を守るならば、神はまことにこれを養い、これを強くし、また人に命じたもうたことをなし遂げることができる方法を与えたもう。それであるから神は私たちが荒野に留っていた間にも私たちにいろいろな方法を与えたもうた。」（1ニーファイ17：3）

主がオリヴァ、カウドリに「……汝はレーマン人の所に赴きてわが福音を彼らに説き教うべし。而して、彼ら汝の教えを受けなばレーマン人の中にわが教会を建てさせよ。……」（教義と聖約28：8）と語られたように、主は教会の指導者たちに対して私たちに与えられている聖典の中に書かれている予言を成就するために計画準備し、成就を待つように指示されたのである。

さらに主は我々に次のように教えておられる。

「それにもかかわらずわが業は進み行かん。そは、ユダヤ人の証（聖書を通じ）によりて一人の救い主のこと世に知られたれば、正にその如くわが民にも一人の救い主のこと知らるべければなり。すなわちまたニーファイ人（および、レーマン人）、……にも、その先祖たちの証により知らるべきなり。」（教義と聖約3：16-17）

その証とはモルモン経である。モルモン経が真実であることを知りたいと望み誠心誠意モルモン経を読むレーマン人はすべて、レーマン人たちが自分の祖先であり、モルモン経がその記録であり、自分もレーマン人のひとりであるという証を得るだろう。

「すなわち、この証はまたレーマン人……の間にも知らるべきなり。……而して以上の記録を載せたるこれらの金版は、実にこの目的のために保存されたり。すなわち主がその民になしたる約束の必ず成就さるべきためにして、これまたレーマン人のその先祖のことを知り、主の約束を覚り、かくて福音を信じ、イエス・キリストの功德に頼り、その名を信ずる信仰によりて栄光を得、かくてまた彼らその悔改めによりて救われんがためなり。」（教義と聖約3：18-20）

ジョセフ・スミスが教会を組織していた時、彼が最初に行なったことは自らレーマン人に福音を述べ伝えることであった。それからジョセフ・スミスは兄弟たち、すなわちザイバ・ピーターソン、パーラー・P・プラット、オリヴァ・カウドリ、ピーター・ホイットマーを派遣したのである。そして、主は言われた、「……さらば、われ自らも共に行きて彼らの真中に在らん。われは父に彼らを擁護すれば、何も彼らに打ち勝つものなからん。」（教義と聖約32：3）

レーマン人の成長と発達はすべてのモルモン社会教会全般にわたるプログラム、キリスト教にとって最も重要なことである。

1963年にバプテスマを受けた人々のうち23パーセントはレーマン人であった。その数は年間に2万5000人にのぼった。1970年はこれよりももっと多かった。これらすべてのことはレーマン人が真理をいかによく受け入れるかを表わしている。次の言葉はレーマン人の1人が語ってくれた言葉である。「この福音、すなわち時としてモルモン教と呼ばれる福音は我々が全生活を傾けてきた何物かである。そしてそれが突然今よみがえっている。」あなたがたは忘れてしまったことを思い出そうとしたことがあるだろう。思い出そうとやっきになっている時、突

然、記憶がよみがえってきたという経験があるだろうか。福音もレーマン人にこのようにしてよみがえっている。あるすばらしいナバホー人は私にこう言った。「我々は自分たちの生き方が道からはずれていることを知りました。我々は昔からよくあなたがたといっしょでした。それから、我々は真真中に大きな石を置いて道を分けるようになりました。我々は一方をそしてあなたがたは他方の道を歩きました。しかし、今や、我々はこの大きな石のまわりにはいます。我々はみんなもとのところに帰っているのです。」

中央アメリカには約3万人のレーマン人の会員がいるがこれはここ2、3年の結果にすぎない。教会には約10万人のポリネシア人がいるので、現在、およそ25万人にのぼるレーマン人がいることになる。20年前は大きく見積っても数千人くらいの会員しかいなかったろう。しかし、今日、2、30年という短い期間に25万人が会員となったのである。私たちは百年以上の長さにわたって、ポリネシア人と共に伝道の業にたずさわってきたのである。

レーマン人にもレーマン人ではない人々と同様2年間の伝道に出る宣教師たちが何百人もいることを知るのには喜ばしいことであり、またこのような宣教師たちが自分の時間と資産を投じて、広く自分たちの同胞に福音を述べ伝えており、きわだった成功を収めていることを知るのには実に喜ばしいことである。100に近い伝道部のうち最も活発な4つの伝道部はすべてレーマン人の伝道部であるということは実に興味深い。4つの伝道部とはメキシコ北部伝道部、グアテマラ、エルサルバドル伝道部、メキシコ伝道部、トンガ伝道部である。これら4つの伝道部は世界中で最も大きな伝道部である。このことはどのような意味合いを持っているのだろうか。それはかつて他の民族に比較できない程、レーマン人が福音をよく受け入れているということである。レーマン人は長い間待ち望んでいたあるものに気づき、そして今、彼らは福音を受け入れているのである。全伝道部で21傑に入る伝道部のうち上位9番目まではレーマン人の伝道部である。

現在、メキシコ北部伝道部では宣教師7人につき53名の改宗者を得ている。メキシコ北部中央伝道部では34名であり、メキシコ南部伝道部では30名である。バプテスマの数が非常に少ない国々があるがレーマン人の国ではない。神はレーマン人が福音を受け入れるように祝福したもうている。彼らはこの時代にあって他の民よりも福音に共鳴している。レー

マン人たちは自分たちが今まで見逃し、また、見逃していることにも気づけなかった真理に気づいているようである。今や、福音の真理は彼らにももたらされたのである。

予言者アビナダイはノア王にかかって火あぶりにされている時、次のように言った。「よろずの民が主の与えたもう救いを見る時と、あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、あらゆる人々が心を一つにして神の裁判は正しいと神の御前に告白する時がくる。」と。(モーサヤ16：1)

ギアナを除く南アメリカに住むすべての国民、中央アメリカにあるすべての国々、メキシコにあるすべてのステーク部、カナダの全地そして合衆国の全州に福音が述べ伝えられており、その中でのレーマン人の宣教師たちの働きはめざましいものである。

一般にレーマン人は善良な民であり誠実な民である。当然のことながら、レーマン人の中にもなかなか希望にそぐわない人々もいる。しかし、全体的にみて、レーマン人は情に厚く愛すべき民である。

たぶん、アメリカにおける12人の弟子のうち何人かはレーマン人であったかもしれない。かの偉大な予言者サムエルはレーマン人であった。私が知っている中で世界中のどの歴史をとってみても200年以上の長きにわたって義が行なわれたためしはない。がレーマン人にはこれがあったのである。この200年間というものは戦争がなく、分割や内紛の「関係者」となったことはなかったのである。すべての人々が一致の精神を持っており、人々は互いに話し合っていたので、ここには戦いはなかったのである。

家族を守るために戦いに送り出された2千人の「ヒラマンの息子たち」がいたが、だれ1人として戦死しなかった。彼らは戦い、血を流し、ある者は傷を負ったが、その大いなる信仰のためにひとりも死ななかった。レーマン人は生来、信仰を持っているように思われる。彼らは主に近い民である。

主はレーマン人を祝福され、進んで彼らの間でみ業を行なわれている。イエスはこの大陸に住むレーマン人を訪れたもうた時次のように言われた。

「われはユダヤ人の中にてかほど大いなる信仰を見たることなし。されば、われはユダヤ人の信仰足らざるため、汝らに現わしたるこの大いなる奇蹟をかれらに現わすこと能わざりき。われ、まことに汝らに告ぐ、ユダヤ人の中には汝ら(レーマン人)の見たるごとき大いなることを見し者、また汝らの聞きたるごとき大いなることを聞きし者一人もなし」と。(Ⅲ ニーフアイ19：35-36)

兄弟姉妹の皆さん、あなた方は偉大な支族に属しておられる。あなた方の父祖はエジプトに売り渡され、女王の誘惑に従わずにむしろ獄屋に行った徳高きヨセフである。またあなた方の父祖は12人の息子たちの父親であったヤコブである。あなた方はこの12人の息子たちのいずれかによってこの世にあるのである。イサクは偉大な予言者の1人でありあなた方の父祖であった。他の偉大な予言者、あなた方の父祖はこれ以上偉大な者はいないと思われるアブラハムであった。アブラハムは神と共に歩み神を誇った偉大な人物である。アブラハムは多くの世代をさかのぼればあなた方の父親である。アブラハムを誇りとし、あなた方が誉れある血統の出であることを知りなさい。その誉れある血統をもって、目的を成就し高きにつくことができるのである。

あなた方は靈性を備えておられる。1年ほど前、アッセンブリーホールを埋めた姉妹たちの前で話をされ、今晚もここにおいでになるある若い女性の話から、私は、ほんの少しだけ引用させていただきたい。その姉妹は次のように語られた。「8年前、私は、着のみ着のままでもわずかばかりの財産の入ったくつ箱1つを持ってバスを降りました。私は貧しい家の出でした。私の同胞たちはみすばらしい人々でした。しかし、皆様方はこの私に対して心を開いて下さいました。私はこのことを感謝しております。今、私は真新しいスーツケースとたくさんの洋服を持って家に帰ることができます。しかし、これは私の財産ではありません。私は着てきた着物と小さなくつ箱に持ち物をつめて帰ります。そして私はなおも富める者です。私は指定保留地に住むだけよりもより富める者となることができます。なぜなら、私は心の中にそれを持っているからです。これは真珠のように尊く、また金のように貴重で、この世のあらゆる富と同じように尊いものです。私は福音が真実であるという証を持っています。私はイエスがキリストであり、神が生きてましますことを知っています。また、祈りが答えられることも知っています。」こう証したのはベレンダであった。その後、私はベレンダとその夫のために神殿で儀式を執り行なったのである。

あなた方が義にある時、あらゆる祝福の中で、あなた方レーマン人に与えられない祝福は1つもないのである。あなた方は誉れある血統の出であり、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ、リーハイの子孫なのである。

# グアテマラの夜明け

10 年間というもののコーデル・アンダーソンは安らかな気持ちで眠れたことがなかった。いつも1つの夢、それも、あまりにも強烈に耐えられないような夢にとりつかれていたのであった。彼が見たものは、貧困に苦しむ2千万人もグアテマラのインディアンたちが救いを求めている光景であった。彼はこれらの人々の声を真実の叫びとして理解した。というのはその国で末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師として伝道していた1957年に恐ろしい飢饉を目の当りにしていたからである。夢が現われては消え現われては消えるごとに彼は心の中で叫んだ。「ああ、神様、あなたの子供であるあの民はあんなにひどく苦しんでいます。もう彼らを救い下さってもよいのではないのでしょうか。」

しかし絶望の境涯を送ることが定めの人々に彼1人の力で一体何ができると言うのだろうか。彼は実際的な訓練を受けたこともなければ経済力もない1人の人間にすぎないのである。しかたなくコーデルはその夢を心のうちにしまい込み、働いて金を貯めながらグアテマラについて研究し時期を待ち続けた。

そして、1967年8月、31才のコーデルは財産を売り地位を棄てて妻のマリアと4人の子供たちをたくさんの荷物を積んだキャンピング・カーに乗せて、グアテマラのコバンに出発した。コバンは市内に1万人、近郊地域に20万人の人々が住んでいる町であった。

コバンに到着するとコーデルは人々

を正しい富裕な民とするための方法をあれこれと思案した。まずこの文化の遅れたインディアンの友情と尊敬を勝ち得なければ彼らの生活を新しい良い生活に変えることはできないと思った。彼は網目のような山道をまわって村々で教育映画を見せることから始めた。この方法は何世紀もの間インディアンたちの生活を支配してきた迷信や伝統を打ちこわすのに必要な足がかりとなった。

インディアンたちと友だちになり、彼らの恐れを取り除いていくうちに2年の歳月が流れ、コーデルはもう準備ができたと思った。「いかなることが要求されようとも、この民の救いのためにこの身を捧げよう。」というオルソン・プラット<sup>1</sup>の言葉が耳元にとどろくを感じながらその言葉を静かに口ずさむと、もう一度家族を乗せて原始的なフィンカ・バルパライーソ（天国の谷農場）へと出発した。コバンから25キロ離れたその土地でそこに住んでいるポコンチ・インディアンの40家族と共に働くためであった。

コーデルは慎重に、しかも着実な足取りで援助を開始した。今かかえている問題が何なのか、またこの悲惨な状態をひき起こしたのはだれなのかを彼らに理解させるためであった。彼の最初の目標は、食生活の改善、種痘や衛生施設の拡充をも含む早期治療の徹底により、高い幼児死亡率を減少させることであった。このあたりは無医地帯であり、合衆国陸軍の軍医として訓練を受けたコーデルは、いつの間にか栄

養失調や流感、また赤痢、チフス、肺炎、伝染性皮膚病、その他一般的な子供の病気の治療にあたっていた。

週ごとの家庭訪問をしていたある日コーデルは2才になる男の子が祖母のお乳の出ない乳房を吸っているのを見た。ミグエリートというその子供は足がやせ細って自分の力で立つことができなかった。生後4カ月で母親がなくなってから、ほとんどどうもろこしを焼いて作った焼きもちとコーヒーで育てられていたからである。ミグエリートの耳や頭はかさふたでおおわれ、腹部は空気を入れ過ぎたフットボールのようにふくれ上がっていた。たんぱく質の欠乏が原因でこのような症状になったのである。

コーデルはミグエリートを家に連れて来るようにと祖母に言った。その祖母がミグエリートを連れて、アンダーソン家を突然訪れたのはそれから1年後のことだった。ミグエリートは肺炎で危篤状態であった。

忍耐と愛、また医学に基づいた適切な治療によりミグエリートは回復の一途をたどった。次にコーデルとマリアは、体重6キロのミグエリートの食欲不振の原因をつきとめようと思った。水さえものどを通らないのである。しかし、いろいろ手を尽くしてみたものの原因はつかめず、今のミグエリートの衰弱した体には危険だとわかってはいたが、しかたなく虫くだしを子供の適量の4分の1だけ与えることにした。薬が効いた！ミグエリートは食べ始めた。そして食事のたびに2時間もかか

アンダーソン家の農場のインディアンの少年たちが一緒に泥道を歩いているところ

## バーバラ・T・ジェイコブズ

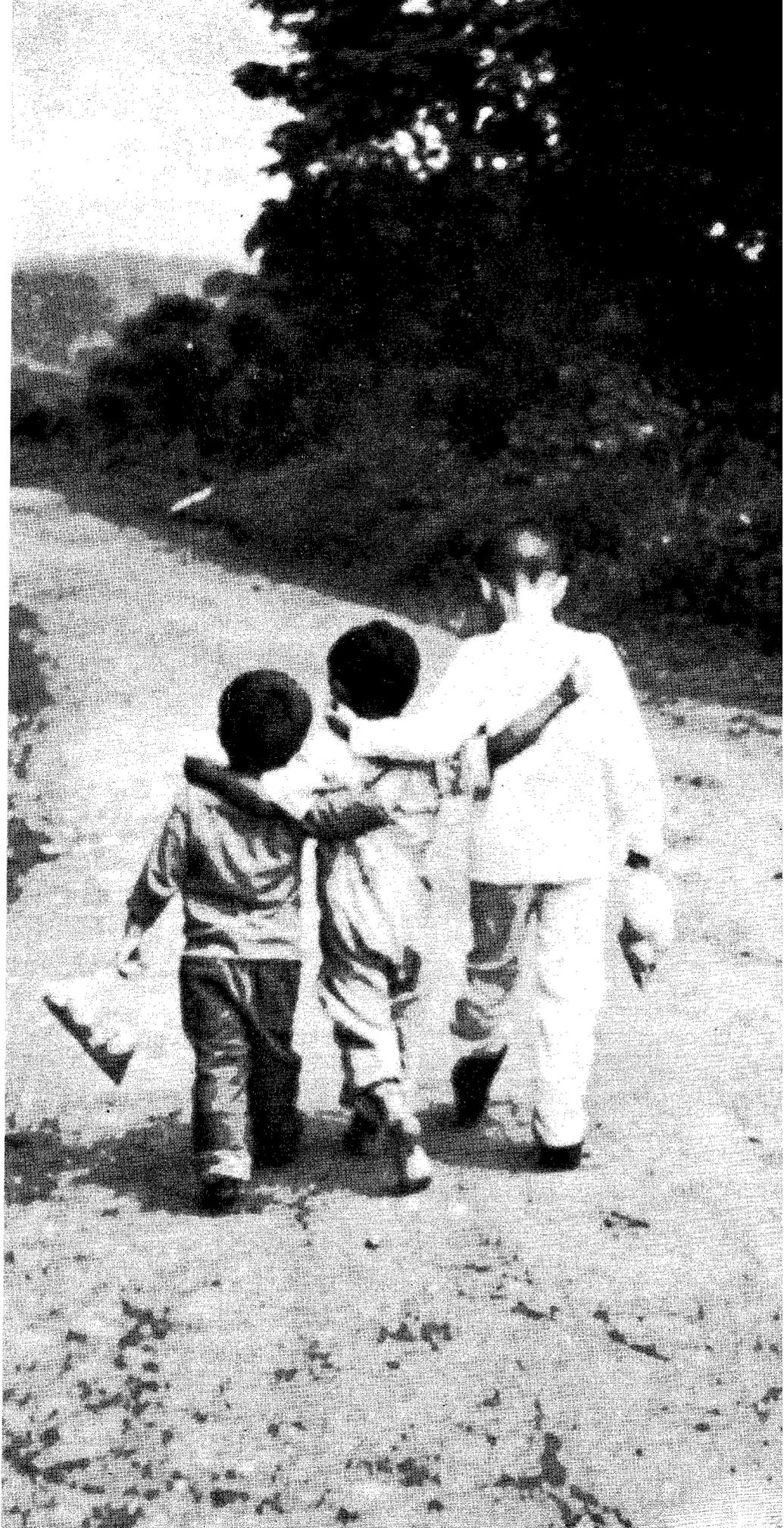
ったがとにかく食べるようになった。6週間後には3キロ体重がふえ、初めて歩いたり話したりすることができた。現在4才のミグエリートは体の大きさの点では2才の標準しかない。おそらく知的な面でも遅れていることであろう。けれども彼は今生きており幸福になった。本当に楽しくしている。

この成功によって今やコーデルは前にも増してインディアンたちの家に受け入れられるようになり、栄養価のある食物を補ったり、病気の早期治療を始めることも認められるようになった。

コーデルの次の目標は近代的な農業の方法をインディアンたちに教えることであった。鳥や牛や豚の飼育法や野菜の栽培法は、新しい農業方法について教えるのに役立つばかりでなく、それによって伝統的な豆類やとうもろこしに変わってバランスのとれた食物が生産されるようになった。次にもしただ働きをすることになると、インディアンたちは決して豊かになることはないと判断したコーデルは、彼ら1人1人に働きに応じてお金を与えようとした。

このことはそれぞれの農場開発計画が、利益をあげるだけでなく独立採算で運営されなければならないことを示すものであった。

コーデルは農業の様子を実際に見せ参加させることによってインディアンたちに農業方法を教える活動を推進するかたわら、希望者のために正規の授業を始めた。午前中の幼稚園と1年生



の授業、そして午後の2年生から5年生までの授業は、正規の末日聖徒の教師であるフレディー・レノーゾと、グアテマラ市の末日聖徒の少女ロジータ・エストラダによって進められた。このクラスには現在までに30人の子供たちが登録されている。午後4時になると教科書にモルモン経を使い、インディアン語の他にスペイン語の読み書きを習いたいおとなたちのためにスペイン語のクラスが開かれている。また本格的な教科書を使って行なわれる文学のクラスは宗教に興味を持っていない人たちのために設けられている。それに毎週土曜日の午後には少年も交えて男の人たちは木工具店へ行って、設備の整っていない家を整えるためにテーブルやベッドの作り方を学ぶ。

この人々に新しい生活をもたらしたコーデルの計画の中で最も大切なことは、彼らにイエス・キリストの福音を教えることである。コーデルも妻のマリアも共に宣教師なのだ。かつて農園での労働を通して、土地の人々の信頼を得ることができたのに自信を得て、2人は小さな穀物倉庫の中で日曜学校と聖餐会を始めた。出席者の数が25名になると、この小さなグループはバルパライソ・グループとして知られるようになった。そして1970年の12月までに教会のすべての定例集会が開かれるようになった。そして支部の会員の約半分が神権を持つようになり、大祭司1人、長老1人、祭司2人、教師2人、執事4人が誕生した。

コーデルがおよそ3年前に200ヘクタールの土地を譲り受けた時、そこにあったものといえば1ヘクタール余りのやせたサトウキビ畑と原始的なサトウキビ圧搾機だけであった。農耕用の家畜もいなければ、建物もない。土地を耕す機械も一つとしてないところであった。コーデルは必要な農機具を序々に購入し始めたが、設備がこわれ、その修理のための部品やお金に事欠くようになるにつれて、資金の問題でい

つも悩まされるようになった。

コーデルは経験の豊富な農場主でもなければ建築者でもなかったのに、実地作業を通して学ばなければならなかった。養鶏を行なう前に養鶏箱を作る方法を学ばなければならない。養鶏箱のまわりのハエの問題が起こってくると、金網の床を作って箱の底よりも少し高い位置に取り付けた。養鶏箱の下から掃き出される鶏糞は今ではサトウキビ畑の肥料として使われている。

農場に家畜を入れた時には、牛が炭そ病にかからないように種痘の方法を学び、ダニを駆除する方法を考えなければならなかった。

インディアンたちは副食の価値に疑問を持ち、庭に野菜を植えることに反対した。彼らにとってはとうもろこしだけが唯一の食料であり、野菜は家畜の食料だったのである。

また非常に不潔な状態の中で生活している病人の治療のために、雨降りの暗い中を足首まで泥につかりながら歩かなければならない時がよくあった。インディアンたちは自分たちの使っている薬や魔術が何の効果もないことがわかるまでは、家族の病気をコーデルに知らせようとはしなかった。従って石灰におかされて深いひびのはいった手や、鶏の糞のために伝染病にかかった耳の治療などに立ち向かわなければならなかったのである。

インディアンたちは教育の意味を理解できなかったのに、コーデルはインディアンたちに子供たちを農場の学校へ出席させねばならないこと、また彼ら自身も夜の講習に来てスペイン語の読み書きを学ばなければならないということを教えるために、あらゆる方法を使って説得しなければならなかった。教育という方法がなければ、聖典も教会の教科書も意味がないのである。今日でもまだモルモン経の中に書かれてある重要な言葉の多くは彼らの間では大人たちにも理解されていない。しかし彼らは同意語をよく理解す

ることができるので、モルモン経の語いを序々に増していくことができるであろう。

教会員にとっての共通の悩みは、非教会員のこと、彼らがなたをもって攻撃をかけてくることである。バプテスマを受けた人々はすべて、この地方の問題、たとえばとうもろこしや豆類の高値の原因を生んだとして非難されている。

けれどもインディアンたちの生活の変化と比べると、日常に起こっている問題など大きなことではない。20才になるミグエル・マックスは身長165センチの立派なインディアン。2年前まで彼は清潔（精神の清潔さ、肉体の清潔さ）ということ、責任、忠実、自発成就あるいは救いということの意味を知ることがなかった。ぼろの服をまとい日中は父に割り当てられた土地を耕し、夜になると窓も床もない竹とアドーベレンができた小屋の中で過し、土の上にすわって汚れた不潔な手で食

左下は 建築中の衛生施設。

中央はミグエル・マックスが新しい家を建てるために丸のこを使って仕事をしているところ、彼はインディアンの少年たちの主任教師であるフェルナンド・モラの助けを受けている。

右下コーデル・アンダーソンが土地の人々に薬を与えているところ。



事をしていた。

その時彼はコーデルに出会ったのである。コーデルは、まわりの者みんなが酒に酔っている中でただ1人酒を飲まずにいるこのインディアンの少年に心ひかれるものがあった。ミグエル・マックスがインディアンの習慣を捨てるまで6カ月を要した。しかし一度決心した後のミグエルの進歩はめざましいものがあった。彼はインディアンとして初めて教会の集会やモルモン経の勉強会に出席し、また今では農場でスペイン語をポコンチ語に訳す最も優秀な翻訳者である。またインカパリーナ（安価な蛋白質補給物）を飲むことによって栄養摂取量を増加させるプログラムを行ったり、野菜畑を作ったり、またポコンチ族としてバプテスマを受けたのも彼が初めてであった。現在ミグエルはホーム・ティーチャーとして働き、断食証会がある時にはいつでも強い確信に満ちた証をするようにまで成長した。

コーデルは自分のもとで働くインディアンをミグエル・マックスのようにしたいという願いを抱いてイスラエル民族の血を受け継ぐインディアンたちを雇い入れて教育し、改宗し続けている。しかし今はまだコーデルとその家族の犠牲があるばかりである。彼はミグエリートのように親がなかったり、

栄養失調や病気で死にそうな子供がいると戸籍登録せずにどんな時でも養子にする。現在彼は家、食糧、衣類の世話、そして31人の人々のための医療を施す責任を持っている。

その結果コーデルとマリアは自分たちの家を整え、十分設備を備えつける時間もお金もなくなってしまった。7人の子供たち（3人はグアテマラ生まれ）と共に3つの部屋で寝るが、急につれてきた孤児たちのためにベッドが足りなくなったりする。コーデルもマリアも每晚10時半まで働く。39人の家族や客たちは毎日3交替で食事をするので、マリアは日に2回チーズやバターを作らなければならない。

グアテマラ人労働者がまだ仕事に使う設備の取り扱いや仕事の手順についての十分な訓練を受けていないので、コーデルは農場でのすべての状況を監督しなければならない。そのようにして1日中畑に出て働いた後、今度は家へ帰って11人の散髪をする。アンダーソン家の家族と240人のインディアンたちは団結した1家族のように働きながら最初の2年間で共に実質的な進歩をとげることができた。何もない状態から始めた彼らが現在所有しているものは次のとおりである。

1. バプテスマを受け什分の一を納める10人のインディアンの会員と

集会に定期的に出席する多くの求道者。

2. 建築中の教会堂。
3. 校舎、学習机、学習教材（学校の計画として子供たちは学校の野菜園造りや300羽の鶏の世話をしている。）
4. 平日の夜に行なう教育・娯楽映画と日曜日に行なう宗教映画のプログラム。
5. サッカー、フットボール、バスケットボール、テニス、卓球、ボート、水泳、読書などの施設を設置するレクリエーション・プログラム。
6. 40戸の公衆便所（1970年以前、インディアンたちは公衆便所が何であるかわからなかった。）
7. 住居として適当でない小屋のかわりに清潔で近代的な家を建てる建築計画の開始。（新しい家が建築されるまでインディアンたちは現在住んでいる家に窓を作り、家具を取り付け、また炉を土間から離れたところに移して改良をはかった。）
8. 乾期に不向きな野菜やぶどう、その他の果物類の栽培を可能にするための自動散水装置。
9. 豚100頭（現在ほとんど売却済み）と畜牛100頭。





治療を必要としている人々の家庭を訪れることもアンダーソン兄弟の仕事の一部である。

10. 養鶏（生後1日のひな1,800羽を1カ月に1度購入する。この利益の一部は学校経営にあてられる）
11. 魚を貯蔵する貯蔵庫。
12. 余剰の卵、ひな、野菜、チーズバターなどを売るコバン市内の小さな店。
13. 病気の早期発見のための家庭訪問計画。（1970年の病人訪問実績は1,000人以上。それ以前には5才以下の子供の50パーセントが死亡していた）
14. 食生活の改善。（妊婦や就学前の子供たちには必要に応じて栄養食品が供給される。またすべての学校の児童の毎日の給食にはチーズ栄養補強された焼きもち、野菜、ケア<sup>2</sup>から送られるインカパリナ

入りの薄い粉ミルクが与えられる）慣れないと吐き気を起こすので普通のミルクは与えられない。

15. 繁栄。（労働者たちはインディアンが以前得ていた賃金額の最低3倍の賃金を日給として得ている）

コーデルは農場の自立経営ができるようになれば他のインディアンの参加も見込んでいる。また週に1度は後にリヤカーをつけた自転車を引きながら農場を見おろす山の頂上にある村落に病人がいなか見てまわることもすでに始めている。また教会の他の支部からインディアンの若者たちを家庭に招待して6ヵ月間訓練している。この目的は若者たちが十分な知識を得て、それぞれの家へ帰ってから同じようなプログラムを推し進めることができるようにすることである。

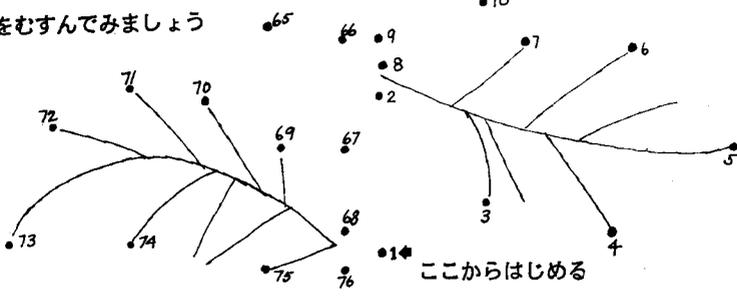
レーマン人に関する予言は、彼らのもとに福音がのべ伝えられ、「心の暗が次第に消えて……皮膚の色が白くて喜

ばしい民になる」と告げている。（II ニーフエイ30：5—6 参照）グアテマラで貧困と悲惨の状態にあった少数のレーマン人たちは今、アンダーソン家の人々の努力により大きくはばたこうとしている。深い愛と忍耐、厳しい労働と犠牲を通してこれから後の年月も神に選ばれた民を多く目ざめさせようと望んでいる。1人の白人の兄弟とその家族は、これから後の年月も神に選ばれた民を多く目ざめさせるために、愛と忍耐、労働と犠牲を通して働くことであろう。

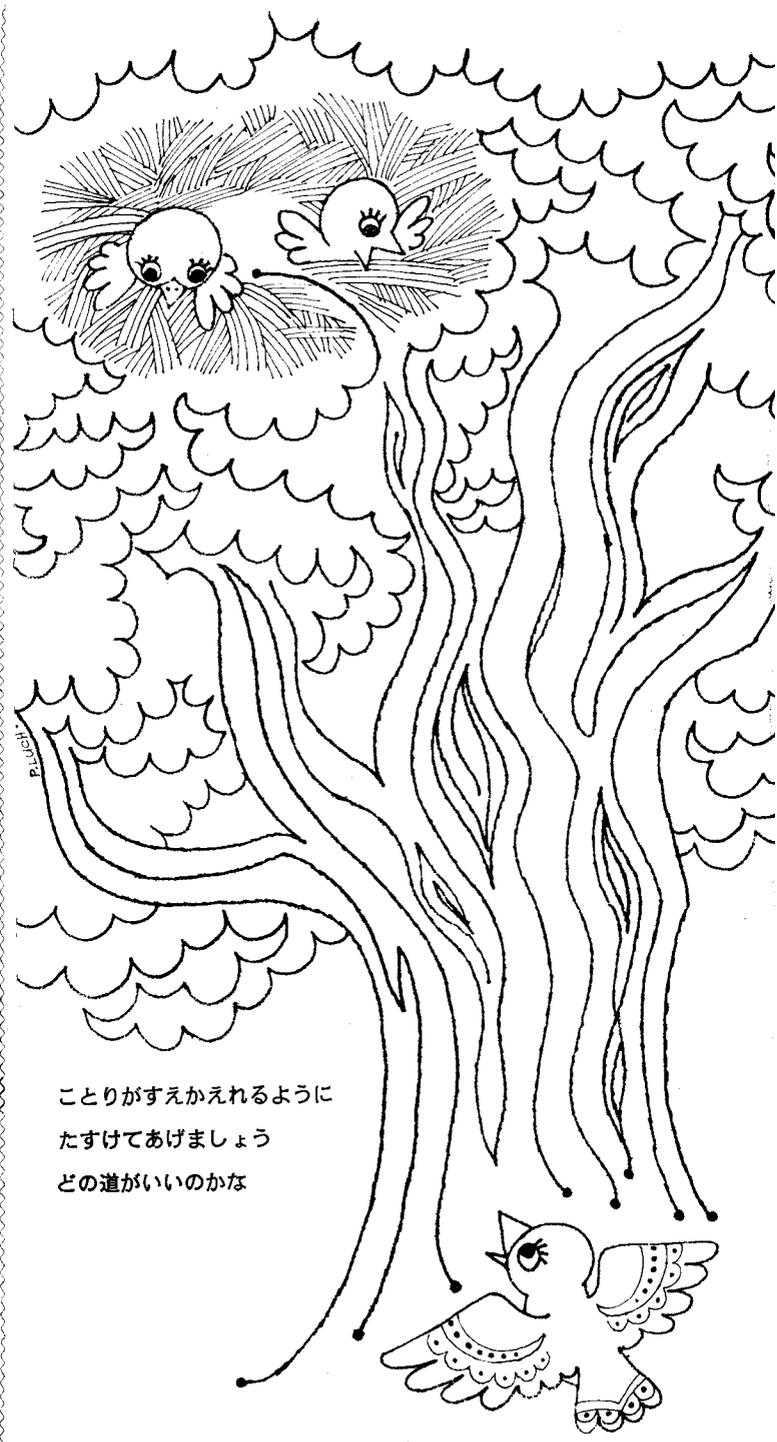
1. オルソン・プラット：教会初期の十二使徒評議員 1811～1881年
2. ケア：対外アメリカ援助物資発送協会。営利を目的とせず、またどの宗派にも属さない個人的な篤志家の援助協会で26のアメリカの事業、宗教、労働、友愛団体によって組織されている。ヨーロッパ、アフリカ、南米、中近東などの4,000万人の人々に食糧援助を行っている。



点をむすんでみましょう



ここからはじめる



ことりがすえかえられるように  
たすけてあげましょう  
どの道がいいのかな

# ほんとうのナ

シェリー・ジョンソン  
絵 テッド・ナガタ

ワ  
ンダの茶色のひとみは、織り糸の入っていないはた織り機をほんやりとみつめていました。手はひざの間に組まれ、長い黒かみがそよ風にゆれていました。数週間もの間、12歳になるワンダとワンダのおばあさんは、敷物を織る計画をたて、その準備をしていたのでした。2人は羊の毛をつむぎ、それを洗って、木の根やいちご、くるみ、それに草などからとった天然の染料で染めあげました。

おばあさんはしわだらけの手で、ワンダにその毛をどのようにしてすき、織り糸につむぐかを教えてくれました。ワンダは、注意深くそれを見つめました。なぜなら、これはワンダにとって、はじめて織る敷物だったからです。

おばあさんは、あげパンを作るためにこねた小麦粉をいそがしそうにたたきながら、そばのホーガン（ナバホー族の土の小屋）から顔だけ出して言いました。「ワンダ、織らなきゃ敷物はほっといてもできないよ。」「じゃ、おばあちゃん、おばあちゃんが前に作ったようなもようを描いてくれないかしら。そしたら私、それを織るわ。」「だめだよワンダ、ほかの人の描いたもようを織っているのは、ほんとうのナバホーにはなれないのだよ。敷物にはお前が自分で考えたことを織りこまなければならぬんだよ。そうやってナバホー族にふさわしい人間であることを証明しなきゃ。』

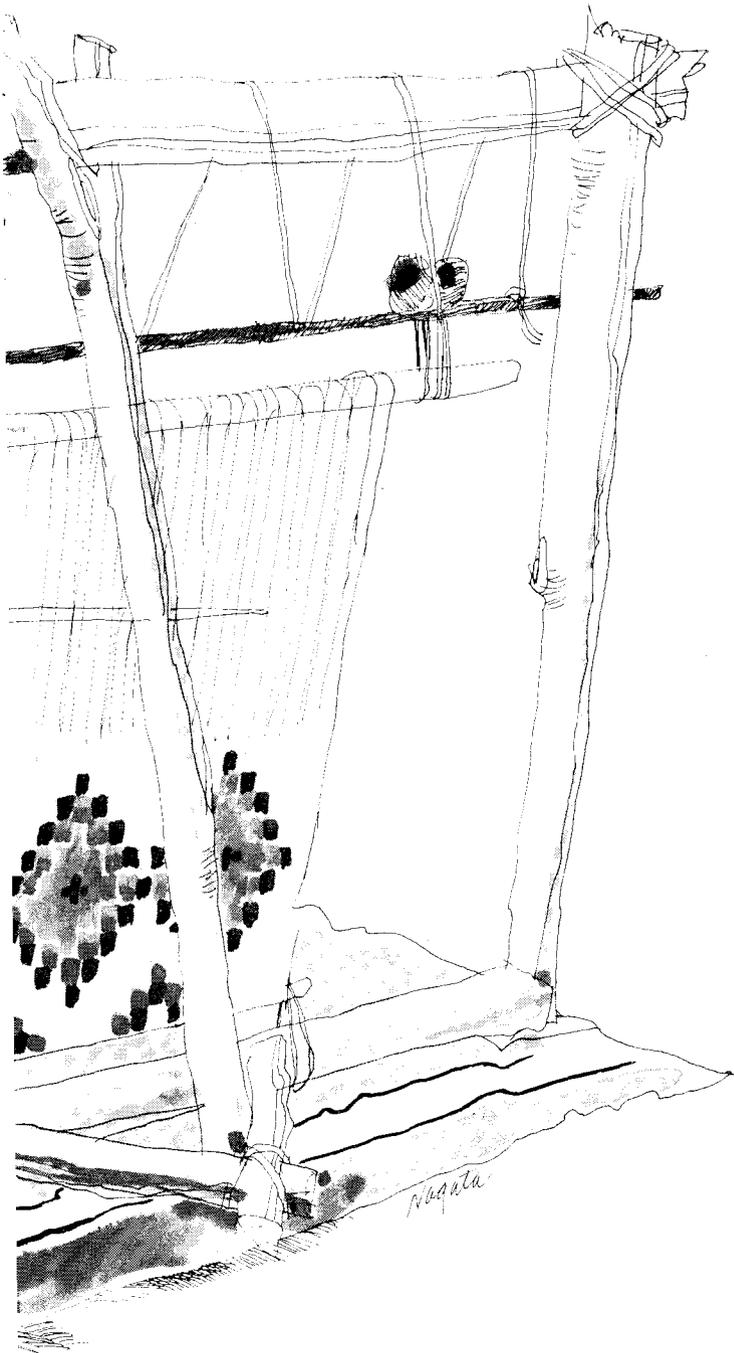
ワンダは、また、織り糸の入っていないはた織り機の方にもどって行き、黒い織り糸の玉を手にとってじっと見つめました。「私は何を織ることができるかしら。』ワンダは考えました。「私は、キャシィ・サイレントマンのように、すごい勇やかな経験をしたことはないし、エルピラ・タクが会ったようなえらい人に会ったことは1度もないわ。私には敷物に織り込むほど大切なものなんか何もないんだわ。』

ワンダは黒い織り糸の玉を地面に投げつけ、ホーガンに入って行きました。お母さんとおばあさんは、ちょうどあげパンをつくり終えたところでした。「お前のためにあげパンをこしらえたんだよ。』お母さんはにっこり笑って言いました。しかし、ワンダは聞いていないようすでした。

お母さんの長いスカートは、さらさらと音を立て、銀とトルコ石でできた宝石が火のパチパチというリズムとうまく合



# バホー族



って、カチカチ音を立てていました。しばらくしてお母さんがたずねました。「来年、白人の学校に行くかどうか決めたの？ワンダ」

ワンダは首をふりました。行きたくありませんでした。ワンダは、ナバホー族のひとりでしたし、白人の習慣は必要ありませんでした。「でも、どんなふうにお母さんに言ったらいいかしら。なぜたくさんのお母さんに一度に決めなければならないんだろう。」ワンダは考えました。

「すぐ決めなきゃいけませんよ。」おばあさんはワンダに言いかけました。「時間はもうあまりないからね。」

ワンダは自分が決めたことについてまだ話したくありませんでした。ごちそうを食べ終えたあと、お母さんが小さい子供たちを寝かせている間に逃げ出そうとしました。でも、お母さんはワンダを止めました。「ワンダ！」お母さんは、2歳になる妹のロバータの上に毛布をかけながら言いました。「もうこれ以上のばすことはできないのよ。あさって、職業紹介所からくる人に言わなければならないんだから。それからほかにもうひとつあるのよ。」

お母さんは戸口の方に歩いて行ってワンダについて来るように合図しました。ふたりははた織り機の方へ歩いて行きました。お母さんは着ている美しいナバホー族のスカートを手でのばしながら腰をおろしました。「ワンダ、いとこのピクトリアを覚えてる？」「ええ、3年間白人の学校に行ったわ。」「そして、ピクトリアは勉強したたくさんのお母さんに話しているか覚えてる？今ピクトリアは、それらを教えて家族を助けているのよ。」「ピクトリアがたくさんのお母さんに勉強したことは知ってるわ。」ワンダは答えました。「でもお母さん、それらはみんな白人のことよ。私たちはナバホー族だわ。私に必要なのは、料理の方法や敷物の織り方やどのように私の家を手いれするかということだけよ。」「お母さんがお前に言いたかったのはそのことなのよ、ワンダ。お母さんはお前がナバホー族のひとりであることにほこりを持っているのをうれしく思っています。だけど、私たちは、白人の世界と一緒によい進歩しなければならないのよ。お前のお父さんと私は政府指定保留地の新しい家のひとつに移る

ことに決めましたよ。」 ワンダは飛び上がらんばかりに驚きました。「白人の家にノ Hogan から移るの!」「そうよ、ワンダ、私たちのような大家族には、ずっと住み心地がいいでしょう。」

織り糸の玉をじっとみつめていたワンダは、お母さんの方を見るとくるっと向きを変えて、よもぎの生い茂った丘の方に向け出しました。長いスカートが走る時に足首に巻きついてきました。

ふいに彼女は、はげしく息をきらせて砂の上に倒れました。それから砂の上をゆっくりと転がり、空に浮かんでいるふわふわした白い雲を見ました。白人の家にノ どうしてお父さんやお母さんはそんなことができるのかしら。私たちはナバホー族だわ。私はいつだってナバホー族でいたいノ 白人の言うとおりになるなんてまっぴらよ。

ワンダの目は涙であふれそうになりました。しかし彼女はぐっとがまんしました。ナバホーは泣いたりしないということ思い出したのです。

とつぜん彼女に1つの考えが浮かびました。「そうだ。私の部族の物語を敷物に織ろう。」彼女は決心しました。私は仲間が白人にどんな扱いを受けたか、お父さんとお母さんに思い出させたい。そうしたら、私を白人の学校になんか行かせたくなくなるわ。彼女ははね起きると、敷物のもようを考えながら Hogan にもどって行きました。

ワンダが敷物を織りはじめたというニュースは、女性たちの間にすぐひろがりました。少女がたったひとりで、最初の敷物を織る時、それは1つの重大な出来事なのです。だれもが「ワンダはちょうどビクトリアのように、われわれ部族の宝となるだろう。われわれは彼女をほこりとしよう。」とほほえみながら言いました。

それらの言葉はワンダの耳につきささり、ますます速く彼女に織らせることになりました。でもビクトリアは3年間も私たちからはなれてたわ。どうして私をビクトリアとくらべることができるでしょう。私は白人の学校へは行かないわ。私はナバホー族よ!

ワンダの指はその夜、織り糸の玉をたくさん作ったのでずきずき痛みました。「きっと、きれいなのができるわ。」後から声がしました。ワンダは見上げておどろきました。「こ

んにちわ。ビクトリア」ワンダは仕事を続けながら、やさしく言いました。「あなたの来るのに気がつかなかったわ。」

「ずっとあなたを見てたのよ。じょうずねえ。その敷物は何についてなの、どんな物語なの、ワンダ?」とビクトリアはたずねました。「私のはじめての敷物は、私のおじいさんについてだったわ。」「あなたは、昔の話を織ったの。」とワンダはたずねました。「もちろんよ、私はナバホー族のひとりですもの。」ビクトリアはワンダのとなりに腰をおろすと砂の上に指を走らせました。

ワンダはビクトリアを見つめました。「でも、ビクトリア、あなたは白人といっしょに暮らして、白人の学校に行ったわ!」「ええ、私の家族と部族の人々を助けるためにね。私は白人からたくさんのことを学んだわ。でも私はナバホーよ。私は両方の文化の一番すばらしいものを私の部族の人々に持ってもらいたい。私たちは白人の持っている良いものと私たちがいつも持っていた良いものと両方持たいものだわ。いつか学校に行くでしょう。そしたらあなたも助けることができるわ。」

ビクトリアが行ってしまってから、ワンダの今までの考えは、今ビクトリアが話したことといっしょになって頭の中でぐるぐる回っていました。眠ろうとしても眠れず、一晩中そのことを考え続けました。

朝のやわらかい日ざしが谷間にしのびよりはじめた時、ワンダは織り機の方に急ぎました。

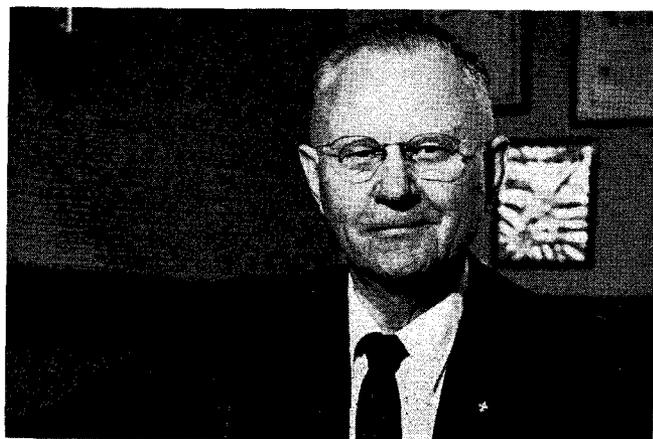
彼女の手はおとといと同じようにすばやく、確かに動いていましたが、顔にはやすらかなほほえみが浮かんでいました。日暮れまでにその敷物はできあがりしました。そしてみんながワンダの作品を見に集まりました。

お父さんはその小さな敷物を一番はじめに見ました。お父さんはそれを長い間、じっと見ていましたがワンダの方にふり返って「お父さんはお前をほこりに思うよ、ワンダ。」と言いました。「たいていの女の子は自分に起こった出来事を織るんだが、それらはみんな過去のこと、それらはもう変えられないものだ。しかし、お前は未来を織った。白人の学校に行き、世界を学ぶことによってお前が作り出す未来をね。それからお前は学んだ良いことがらを私たちの仲間に戻してくれるだろう。お前は本当のナバホー族だ。」



## 質 疑 応 答

もし、神権に病いをいやす力があるとすれば、なぜ医師を必要とするのですか。



解答者／ステイプラー長老

あらゆる知識の源は人に益、導き、恵みを与えるため、神よりもたらされる。神は人に科学その他の知識を正しく用いることを期待して、人のために解放しておられるのである。ニーファイはこのように教えている。「……人が最善をつくしてはじめて、神のめぐみにより救われる。」(Ⅱニーファイ25：23) 私たちはこの言葉を神権の力によって病いがいやされることと対比し、関連づけることができる。すなわち、「あなたが最善をつくしてはじめて、神のめぐみにより、神権の権能によりいやされる。」もし医師が人の病いに関して技術や医学上の治療方法を知っているならば、治療するための条件の一部としてそれらを用いなくてはならないのではないだろうか。

医療科学は完全な主の計画であるいやしの過程の中でちょうどたいまつ役割を果たしているのである。医薬品と医療技術の進歩により、過去においては限界とされていた病気や苦しみをいやすことができるようになってきている。病気におかされた肉体は医学上の助けを借りることにより、非常な回復力を持つようになってきている。

人の命は多くの重要な要因に基づき形成されている。肉体は多くの化合物からなっている。それらは相関関係にあり、健康と生存を維持するには、それらすべてが正常に働かなければならない。人の生活には、変調、病気、痛み、傷がもたらされるが、それらは医学が提供し得る技術と治療とを必要とするのである。

健康について論じる時、私たちは主より与えられた健康の律法である知恵の言葉を検討しなければならない。この啓示(教義と聖約89章)で、主は人のためにならない物質と人のためになる地の産物に関する知識を明らかにしておられる。肉は控え目に用いられるべきである。もしこの自然の法則に従うならば、私たちは健康を約束される。

知恵の言葉を受け入れて、それに従っているのであれば医薬品や医師を利用することもできるのではないだろうか。人間の力は限られている。しかし神の力は無限である。人の能力で失敗した時、神の聖き力が忠実な神権者を通じて引き継がれ、時として奇跡が起るのである。

主は次のように勧告しておられる。

「汝らの中、誰にても病める者ありてその病人病を医さるべき信仰を有たざるも而もわれを信ずる時は、薬草と柔かなる食物とを与えて全く懇ろに養うべし。……また教会の長老を二人またはそれ以上呼びてその人の為に医しを祈り、わが名によりて按手を為すべし。……およそわれにありて医さるべき信仰ありて、死の命を受けざる者は医さるべし。」(教義と聖約42：43, 44, 48)

私たちは信仰ある者の群れのいやしの儀式が主の福音の計画に含まれていることを感謝すべきである。

次にあげる例から、医師と神権のいやしの力との間にある

医学上のつながりを理解することができよう。

生後14カ月になるある医師の息子が重病にかかった。治療の間、多くの専門医師に診療してもらったが、病気の徴候を解明できただけであった。結果として子供の病状は次第に悪化するだけであった。体温は40度に上昇し、家族は回復を全くあきらめていた。子供の死は時間の問題であった。この時いくつかの奇跡的な出来事が起こった。前もって約束していなかったにもかかわらず、監督と副監督が家族を訪れた。家族の要請に従い、監督会は灌油の儀式を施した。祝福が終わるとほとんど同時に、家族の友人であったインターンが部屋に入って来て、「なぜ、輸血をしないのですか」と言った。そのインターンはだれにでも献血できる血液であったため、すぐに採血し、子供に輸血した。子供の熱は40度から平熱にさがり、病院にはいつの間にか、平熱が続いた。これが、医学上の処置が基本的に失敗し、医学上では子供の命が絶望視されていた例である。そして神権者が登場し、灌油の儀式の後に、以前では計画していなかった他の医学上の処置がとられた。そして子供は命をとりとめた。今日、彼は成人して愛らしい妻と家族を得ている。

もう一つは、重い心臓病にかかった人の例である。午前2時、その人の体をおそっていた病気をおさえる努力は徒労に帰したかに思われた。この時、1人の教会幹部が部屋にはいつて来た。そして、灌油の儀式を施すと、その人の心臓の鼓動は平常の状態になり、命をとりとめたのであった。彼は現在に至るまですこぶる健康である。

このように、医学上の処置と神権による灌油の儀式の間には相互の働きがあって、互いに助け合い、両者が病いのいやしに貢献していることが理解できる。

確かに医師は必要であり、大切である。だが神権によって私たちはそれ以上の力を受け、奇跡的な治ゆいやしが起こるのである。

十二使徒評議員

デルバート・L. スティプレー長老

キスは何回まで許されますか。



解答者／ベニオン部長

この質問はひっかかりがありそうで興味あるものだが、量的な答を求めているようである。質問者の書いた「何回」という質問方法はこの問題に関して考えると正しくない方法であると思う。ユダがイエスにしたキスは大きな出来事であった。私の知っているある女性がある男性に許した最初のキスも同じようなことが言える。なぜならば、それに端を発して多くのキスを重ねることとなり、悲しむべき結婚を招いたからである。

このような質問が大切である。私はだれにキスをすべきか。なぜ。どのような情況で。

キスは2人の個人の間の感情を表現する非常に個人的な、質的なものである。2人の全体的な関係の一部として考えなければならない。

肉体上の成熟、映画、宣伝、音楽、物語、記事、会話等周囲にある多くのものが、愛情を発露させようとしている。この非個人的で物質中心の世の中において、私たちのある者が家族、隣人、教会においてさえも暖かい人間関係を築き損っていることは悲しむべきことである。その結果、若人たちは容認と帰属感を求めて事実上の門外漢に足を向けている。

これが今日の傾向であることは認める。しかし、あなたがたが愛情を表現するにあたって、よく見分け、自制しなければならない理由は依然として存在する。御存知のように、キスはそれで満足するというよりも刺激を受ける要素の方が強い。従って、回数を重ねることになる。男女が一旦、キス、言葉を換えるならば外的な方法によって愛情を分かち合うようになると、これは2人の関心の中心を占めるようになる傾向がある。このような男女は人格すなわち心、性格、成熟、宗教上の信仰、道徳上の価値、目標という大切な分野の探究を中止してしまうことが多い。

もし結婚において真の永続する愛を得たいと望んでいるならば、感情を行動に移す愛情は心からの友情、兄弟愛から生まれるべきであり、これらに先んじるものであってはならない。キスのためのキスは熱情を招く。そして多くの優秀な若人が実際に自分が望む以上に深く耽溺してしまうのである。

道しるべとなる原則として、私は手を握り腕を組み、キスをするということにかかわらず、感情を行動に移す愛情は男女の全体的な関係の程度に一致し、その性格に一致したものとするよう提案する。感情を行動に移す愛情はそれ自体を終極の目的とすべきではない。なぜならば、これは人に激情をもたらすからである。樹木のつぼみ、花、果実のように、愛情を育て、次第に花を咲かせようではないか。心、性格、信仰という豊かな関係に根をおろした大きく自然な関係に感情を行動に移す愛情を築こうではないか。キスが人の関係に入ってくる時と場合は、その関係の性質と目的によるのである。

ユタ大学学生部副部長

ロウエル・L・ベニオン

読者の質問を歓迎します。1人またはそれ以上の人が質問に意見を述べ、解答は教会の教義の表明という形でなく、質問者に援助と見方を与えるため記事にされます。



# 神殿に関して 知っておくべきこと

末日聖徒は、神殿に関するほとんどの事柄を神殿内で学んでいる。しかしながら大管長会は、あなたがたが神殿での経験から正しい知識を得、正しく考えるように、知っておくべきことがあると感じている。

十二使徒評議員会補助

教会神殿コーディネーター

エルレイ・L・クリスチャンセン長老

神殿の目的。

ほとんどの人は最初に自分のエンダウメントを受けるために神殿へ行く。ある人々はその後結婚という聖なる制度により今も永世にも結び固められる。神殿結婚をしなかった両親と結び固められるために神殿に行く人々も多い。また、生きている間にバプテスマの恵みにあずからなかった死者に代わってバプテスマを受ける人々もいる。また死者の結び固めとエンダウメントを身代わりに

受けるために神殿に行く人々もいる。

これらすべての神殿の業（バプテスマ、聖任、エンダウメント、結婚、その他結び固めの儀式）は、生者にとっても死者にとっても進歩と昇栄を得る上で必要である。

もしあなたが神殿へ行って結婚したいと望むならば、まず自身のエンダウメントを受けなければならない。若い男性がそうするためには、メルケゼデク神権を持っていないなければならない。

予定している最初の神殿訪問の日から逆算して市民結婚が1年に満たず、バプテスマを受けて教会にはいってから1年を経っていないならば、大管長会より結び固めとその前の自身のエンダウメントを許可する旨の手紙を受けている場合を除いて神殿にはいることはできない。

もし神殿で結婚するというのであれば、国か州もしくは、神殿の所在する民事管轄機関による有効な結婚許可証が必要である。

#### 推薦状

しかしながら、推薦状と呼ばれるものを自分のワ

エルレイ・L・クリスチャンセン



ード部の監督とステーキ部長から受けなければ、神殿に入ることはできない。あなたは監督と面接をしなければならない。最初に、監督から面接を受けた後、ステーキ部長によりあなたは以下の点について承認を受ける。

1. 福音の証を持っている。
2. 教会幹部、地方の管理役員を支持している。
3. 教会の教えとプログラムを受け入れ、従っている。
4. 麻薬の使用を絶っていることを含め、知恵の言葉を守っている。
5. 道徳的に清い。（姦淫、密通、同性愛などを行っていない）
6. 立派な教会員である。
7. 法律上の紛糾にかかわりを持っていない。

もしあなたが自分でふさわしいと感じ、監督があなたに資格のあることを認め、推薦状を発行し、あなたが信仰ある者、義なる望みを抱く者、主に信頼する者としての態度をとっているならば、あなたは主の宮居において人生で最も素晴らしい経験を味わうことができる。

#### 衣服

結婚をするためあるいはその他の神聖な儀式にあずかるため神殿に入る人々は日常の衣服から簡単に清い白い衣服に変える。十二使徒評議員会のヒュー・B・ブラウン長老はこの理由について次のように述べている。

「ここで我々は街の衣服をぬぎ、俗的な考えをすて清く白い布で肉体を包むだけでなく、心を清い思いの中に置くのである。願わくは、語られる言葉と大いなる感銘と絶えることのないものを益とし、みたまにより教えを受けるように。」

神殿の儀式にあずかるために必要な衣服はすべて神殿で入手できる。神殿へ行く前に、監督か支部長とこの点について話し合うと良い。

初めて神殿に入る人は、神殿内にはいつも世話をしてくれる人がいることを知っておくべきである。神殿の儀式を執行する人、受付、その他神殿で働くよう責任を与えられている人々が、あなたの神殿での経験をうるわしく意味あるものにするために援助をしてくれるであろう。

エンダウメント

神殿で結婚する（もしくは夫と妻として結び固められる）前に、エンダウメントの儀式を受ける。

神殿のエンダウメントとは何であろうか。

「簡単に定義しよう。エンダウメントとは、あなたにとって必要なすべての儀式を宮居で受けることであり、この世を去ったのち、御父のみもとにかえり得るよう、番人として立っておられる天使の前を通りすぎ、聖なる神権に関する鍵の言葉、しるし、かたちを天使たちに与えることができ、地や地獄をも物ともせずあなたの永遠の昇栄を勝ち得ることができるようになることである。」（ブリガム・ヤング説教集 P. 416）

あなたが自身のエンダウメントを受ける時、地球の創造と地球に人を住ませること、来世での主の子らの昇栄に関する主の目的と計画についての教えを受ける。

以前十二使徒であったジェームス・E・タルメージ長老はエンダウメントに関して明確に述べている。

「近代の神殿で行なわれている神殿のエンダウメントは、過去の神権時代の意義と歴史、また人類の歴史上最も偉大な現在の神権時代の重要性に関する教えから構成される。この教えの過程には、創世期の最も顕著な出来事についての話、エデンの園におけるわれわれの最初の両親の状態、不従順とその結果喜びに満ちた生活からの追放、ひたいに汗して働くように命じられた時の孤独で荒涼とした世界での2人の状態、この大きな背罪が贖われるという救いの計画、大背教の時代、古代のあらゆる権能と特権とを備えた福音の回復、現世において純潔を保ち、義に献身するという必要欠くべからざる条件、福音が要求することに完全に従順であること、などについての話が含まれている。

エンダウメントの儀式には各個人に課せられる一定の義務が含まれている。すなわち寛大で情深く、寛容でしかも清くなるよう、厳格な徳と純潔の律法を守ること、真理を広め、人々の精神を高揚するために才能と財産を捧げること、真理に身を捧げ続けること、この世の王であられる主イエス・キリストを受け入れることができるようその準備に貢献するためあらゆる方法を探し求めること、などの誓約と約束が含まれている。各々の誓約に従い、責任を果たすならば、条件を忠実に果たしたかどうかに応じ

て約束された祝福が与えられる。

神殿の儀式の一面、一点といえども人を高揚し、清めないものはない。すべての面でエンダウメントの儀式は、道徳的な生活を送るという誓約、高い理想に向かう精進、真理のための献身、国家への忠節神に対する忠誠に大きな助けとなる。」（主の宮居、P. 74～75参照）

エンダウ（賦与する）とは豊かにする、他人に、永続する非常に価値のある何物かを与えるという意味である。エンダウメントの儀式は次の3つの点で人々を豊かにする。

1. 儀式を受ける人は神から力を与えられる。「参加者は至高者より力を賦与される。」（七十人最高評議員、ブルース・R・マッコンキー長老）
2. 参加者には知識を賦与される。「彼らは主の目的と計画に関する知識を受ける。」（マッコンキー長老）
3. 祭壇で結び固められる時、人は自身のエンダウメントの一部として輝ける祝福、力、誉れを受ける者となる。

エンダウメントは最も大切で最も意義のある祝福である。主は子らにそれを受ける資格のあることを望んでおられる。あなたがたは自身のエンダウメントを受ける日を心から待ち望むべきである。

秘密ではなく神聖な祝福

神殿の儀式は非常に神聖であるため、公けにされていない。義しい生活をして資格を備えなければあずかることができないのである。神殿の儀式は特にこの目的のために奉獻された場所で行なわれ、神聖であるため神殿外で詳細にわたって話し合うことが適切でないとされている。

昇栄に欠くことのできないこれらの神聖な儀式を受け、尊ぶ者は多くの祝福を受ける。神殿の業に参加することにより、人は福音の原則の教えを行動に移し、生きたものとし、役に立つものとするための助けを得る。神殿は黙想と祈りの場である。

神殿は世の中から聖所としてへだてられており、小さな地上の天国と言うことができる。人は神殿を訪れてしばしば自らの誓約を新たにすることができるよう、常にふさわしい生活をし続けるべきである。

今日、比較的若い年齢でイエス・キリストの福音を受け入れた人々は自分たちの生活が劇的に変化しているのにはしばしば気づく。

一般に会員になるとその人の毎日の行動及び生活様式は大きく変化するものである。彼らは新しい友人を得、新しい目標を定める。おそらく、よその町や国で、以前よりも給料も名誉も低い新しい職を得る必要があるときえ思うことがあるであろう。彼らは今では自分のものとなった物の見方を愛する者が理解しようとしないうち、心を痛め涙を流すであろう。しかし彼らはこれまでの生活では一度も体験したことのない愛を味わうであろう。パウロの言葉のように、彼らは自らの喜びが他の人の喜びであることを見出すであろう。(Ⅱコリント2:3参照)

このような人々の人生はたいがい靈性に富む心暖まる証で満ちあふれている。ここで次のヨーロッパ生まれの末日聖徒の家庭の改宗体験を見てみよう。

2人のモルモンの長老のノックに答えることがこのスウェーデンのヘリー一家の生活を変えることになったのである。

「2人はとてもへたなスウェーデン語で自分たちがアメリカからきた宣教師であることを告げました。」ジャード・ヘリーはその時のことを思い出してこう語っている。

「2人はあるメッセージを私たちに伝えたいと言いました。私は彼ら2人の中に非常に靈的なものがあると感じました。2人ともとてもりっぱに見えたのです。」

「主人は仕事にもどる途中で、今はだめだが、いつかほかの時なら良いと言いました。それで私たちは約束をしたのです。そして2人はまた来ました。」

このようにして、ウィリーとジャード・ヘリーは1956年、スウェーデンのシェルフティアで教会に導かれた。

「最初に会った時から、私は自分が非常に長い間待ち続けていた何かを2人が持っていることに気づいていました。」とジャードは語っている。「しかし、私はそのことを宣教師たちに言いたくありませんでした。それで私たちはむずかしい質問をたく

さんして2人をへこまそうとしました。しかしそれは全く失敗に終わりました。2人

ハロルドセン博士はブリガム・ヤング大学のコミュニケーションの准教授である。1969年にBYUの教授会に加わる前U. S. ニューズ・アンド・ワールド・リポート誌のシカゴ地区の編集者であった。以前、監督及び高等評議員を務め、現在シャロン・ウェスト・ステキ部のオレム第14ワード部の成人アロン神権主事をしている。

## 生活を 変える

エドウィン・O・ハロルドセン



はあらゆることに関してたくさんのすばらしい答えを知っていたからです。

宣教師が、生きている予言者について語った時、ジャードは自分が幼い頃、母親に言ったことを思い出していた。「予言者がいたらすばらしいでしょうにね」という言葉である。

のちにスウェーデンの他の町エンチェピングでウィリーの母親は友だちにジャードを紹介して言った。「これは息子の嫁で、モルモン教会にとても興味を持っています。」

ジャードは思い出してこう述べている。「その人たちは教会の悪口を言い始めました。私が以前に聞いたこともないようなことをです。私はとてもおかしいと思いました。」

『いいえ、とんでもない、それは違うわ。』私は言いました。私はその人たちに宣教師が教えてくれたことを話しても良いかたずねました。そして私はジョセフ・スミスのお話をしました。みんな非常に静かにしていましたが、ついにメソジストの宣教師として何年もアフリカにいたことのある老婦人が沈黙を破って言いました。

『もしそれが真実なら、すばらしいことだわ。』

ジャードはその時まだ22歳だった。彼女はモルモン教会についてそれほど多く知らないことを婦人たちに語った。

「でも私は婦人たちに言いました、『私が心から知っていることが1つあります。それはこの教会が真実だということです。』

そのあと私はとても幸福な気持ちになって、踊って見せたいほどでした。そして、にこにこして鼻歌を歌いながら踊るようにして家に帰りました。もしだれか私を見た人がいたら、私のことを気がふれているのではないかと思ったことでしょう。」

このことがあってまもなくジャードの夫もまた証を得、2人はバプテスマを受けた。

ウィリーはその当時シェルフティア新聞ニア・ノランドの編集員で夜間勤務をしていた。「最初私たちはウィリーが新聞社でつらい立場になるのではないかと考えまし

た。皆、ウィリーののことを非難したからです。でもウィリーが真剣であることを知ると、もう非難しなくなりました」とジャードは述べている。

のちに一家はスウェーデンの西海岸の小さな町、ストロームシュタットに引っ越したが、当時その町にはモルモンはひとりもいなかった。他の教会の妨害にもかかわらず、2年もたたないうちに、その町にはプライマリー、日曜学校、活発なMIA活動のあるモルモン教会の支部ができていた。

他の教会は小数のモルモンのグループをますます激しく攻撃してきた。1963年にある有名なスウェーデンの牧師が人々に私たちの教会についてあることを述べるために派遣されたと、ジャードは語っている。しばらくの間この牧師は、アメリカから来た「ナイロン靴下、風船ガム、そしてモルモン」を取り入れないようにスウェーデンの人々に警告していた。彼はいかに教会が悪いかを報道するため地方新聞に記事をのせた。

その牧師がモルモンについて演説する集会が計画されると、スウェーデン国内のあらゆる新聞がストロームシュタットのモルモンについての記事を載せた。この集会のために高等学校の講堂には500人もあふれんばかりの人々が詰めかけた。ラジオやテレビの報道関係者もその模様取材しに来てウィリーにインタビューをした。その時ウィリーは支部長をしており、新聞社の通信員として働いていた。

「牧師が1時間半モルモンを非難する話をした後、人々は質問をし始めました」とウィリーは述べている。「うちの家庭医もその牧師にどうしてそんなにモルモンのことを気にするのか。スウェーデン人はそんなに簡単にだまされはしないと仰いました。彼の言ったことはその夜一番かっさいをあびました。」

数か月してジャードは地方部プライマリーの仕事でイエンチェピングの町にでかけた。すると1人の婦人が自己紹介をして、次のように言った。「私は新聞でストロームシュタットの少数の勇敢なモルモンのグループに対してひどい攻撃が加えられたと

とを読みました。私は宣教師がうちのドアをたたいた時中へはいてもらいました。その時ドアをあけたことを今とてもうれしく思っています。私も会員ですよ。」

1966年にエーテボリの近くのステナングサンドに住んでいた時、ジャードは隣人のヘルディス・カーンに教会について話をした。そして、ヘリー家が引っ越し前、ヘルディスはバプテスマを受け、まもなくして夫のベンクトも教会に入った。現在彼はスウェーデンの「北極圏の地」のルレオ支部の支部長をしている。

ベンクトがこの教会の職に召されたのちウィリーは断食集会で次のように語った。「私の妻は教会の一支部の全会員を集め、今ここに支部長をも得たのです。」

ヘリー一家は現在港町、エーテボリに住んでいるが、家庭の夕べではいっしょに集って歌っている。ある時、そこへ隣人のユダヤ人、トニー・レビンが聞きに立ち寄った。そして1か月もたたないうちにトニーと妻のマスザも会員となった。現在2人はストックホルムで地方部のMIA指導者としてりっぱに働いているとウィリーは報告している。先頃レビン夫妻と3人の娘がベルンのスイス神殿で結び固めの儀式を受けた時ウィリーも同行した。

教会に入って14年経たない現在、ヘリー一家は教会に活発で幸福に暮らしており、主のみ業を進めるために奉仕している。ヘリー一家はスウェーデンで2番目に大きい都市エーテボリの第1支部の会員で、これまでもスウェーデンの要人の前で証を述べ教会について語る多くの機会を得ている。

ウィリーは発行されている多くの新聞に、教会に関する記事を寄稿し、幸福な家庭について連載記事を載せ、また改宗した別のモルモンの家族の記事も載せた。

ウィリーは現在「エーテボリ・ティドニンゲン」という日曜版の編集記者として働き、多くの読者を持っている。最近ソー・ハイエルダールがバピルス船、ラー号で大西洋を横断した時、ヘリー兄弟はハイエルダール博士の航路とモルモン経に記されているジェレドとリーハイの航海とを比較しながら記事を書いた。そのすぐ後ハイエ

ルダール博士の母国、ノルウェーの有力紙がヘリー兄弟の資料をもとにして長い記事を載せた。

1968年ジャードは、その年開かれたスウェーデンの母親コンテストに出場し最後まで残った10人のうちの1人であった。コンテストの当日ジャードはお祈りをしたが、勝つようにはなく「きょうだれかに福音を説く」機会が与えられるようにと祈った。そして昼食の時彼女は、偶然にスウェーデンのある有力誌発行者の隣りにすわったのである。

「その人は私がモルモンであることを知っていました。それで彼は私に教会についてたくさんの質問をしました。私たちは今でも親しくつき合ってます。そして彼はモルモン教会をすばらしいと考えています」とジャードは述べている。

コンテストの翌日、優秀な母親に選ばれた1人が長距離電話をかけてきてジャードにたずねた。「あなたは どうして他の人とそんなに違っておられるのですか。」彼女は1時間以上も話し、その人に証を述べ、教会について教えた。そして宣教師がその婦人にレッスンを始めた。

ヘリー一家の7人の子供たちもまた熱心な宣教師である。子供たちは皆クラスで、教師や書記として奉仕し、また音楽、ダンス、スポーツなどを通して教会で活発に活動している。

ウィリーは支部長会の副支部長をしており、一方ジャードは地方部MIAの管理会員とプライマリーの教師をしている。

父親と母親、そして10歳から18歳までの子供たちは夜明け前新聞配達をしている。一家はまた馬を調教して売っている。夏の間はスウェーデン、ノルウェー、フィンランドから来る、400人から600人の子供たちのために観光牧場を開いている。ほとんどの人が起きようとする時、ヘリー一家はすでに数時間も働いているのである。そして仕事と学校が終わった後教会の活動をして1日が終わる。月曜日の家庭の夕べで一家は歌い楽器を演奏する。

ヘリー一家は多忙だが生活にはりがあり不幸になるすきなどないのである。



## 小説

ジム・ファーガソンはコップを空にすると、椅子をひいて立ち上がった。人里離れた谷間を吹き荒れる風はオーストラリアの片いなかの古い農家の屋根におそいかかるようであった。ジムはしばらくの間うなるような風の音を聞いていた。

「屋根はちゃんとくっついてるんだろうね。」ジムは茶色の髪をした美しい妻、メアリーが燃えさかるまきストーブのところからこちらへ来る時こうたずねた。

「もし、屋根が吹きとばされたら、取りもどしに出かけないといけないわね。」妻は笑って答えた。

「ジム、今晚トラックを修理するつもりなの。」妻がこう付け加えたとき、ジムは妻が少し心配している様子なのに気づいた。

すぐには返事をしなかった。湿った上着を取って

ブロムレイ姉妹はイギリスに生まれ1963年に西部オーストラリアに移住しそこで教会に入った。3児の母親でパースの第5ワード部扶助協会で教養の教師、プライマリーでメリーハンズの教師として奉仕している。

# 交通のとだえた夜

作：マーガレット・ブロムレイ

身にまとうと、がっちりした肩を悪寒が走り、ジムは思わず身ぶるいをした。

「家にいても修理できないからね。」ぶっきらぼうに答えると、玄関のところまでついてきたメアリーにすばやくキスをした。メアリーは妊娠8カ月でありその体は重たげでものうい様子だった。ジムはメアリーを安心させるように抱き、心の動揺をさとりられないように気をつけていた。

「ジム……」と彼女は哀願するように夫の腕に手を置きためらいがちに言った。「きょうはホーム・ティーチャーが来る晩よ。覚えていらっしゃる。」

「覚えているとも。」彼はこう言って力いっぱいドアをあげた。

風は怒り狂ったように吹きすさみ、暗闇の中を故障したトラックの置いてある納屋に行く途中のジムめがけて襲うように吹きつけた。嵐から逃れて納屋に入ると、ジムはあかりをつけながら意地悪そうにニヤッと笑った。こんな悪天候の中をはるばる25マイルもやって来るのはばかか気違いだけだ……。それにホーム・ティーチャーは町の間人だしこんな危険な夜は慣れてないはずだ。こんな時にまで奉仕するなんて……。ジムには期待する気持ちが全くなかった。もし来るならば自分が会員になって2年の間に得た以上のものが教会にはあるに違いない。しかし、ジムはウィリアムズ兄弟とマーシュ兄弟の忍耐強さを認めざるを得なかった。2人はこれまで1度たりとも月々の訪問を欠かしたことがなかったのだ。そしてジムは2人の兄弟が今夜の嵐にめげずどうにかしてその記録を守ってくれることをひそかに望んでいた。

トラックを修理しながら、ジムはメアリーと共に教会に入った2年前の日を思い返していた。水の中に立ちバプテスマの祈りを聞きながら、ばかなまねをして物笑いになるのではないかと気づかっていた。そのあとジムは新しい人生の出発点にいるような新たな気持ちになっていた。

そして、ジムとメアリーは教会の活動に活発に参加していた。1月もたたないうちにジムは執事となり、そのすぐあと教師になり、続いて日曜学校の第2副会長の責任が待っていた。ジムはますます教会に時間とエネルギーを注ぎ込んでいるのに気がついたがそれはすべてやりがいのあることだった。バプテスマを受けて18カ月後ジムは長老の職に按手聖任された。その時ウィリアムズ兄弟がこれを記念して聖別された油の入った小さなびんをジムにプレゼントした。「ファーガソン兄弟」ウィリアムズ兄弟は言った。「これから君は神権と共に生活するのだ。神権は命の次に大切だよ。君が受ける祝福の中で最もすばらしいものなんだ。大切に使いたまえ。」

それから事態は変わった——それは知らない間に進んで行った。たぶん最初のきっかけはトラクターが故障したことからだった。種まきの季節も近づいており、ジムは什分の一のお金をトラクターの修理代に使った。そして不足分はいつか埋め合わせると自分に言い聞かせていた。種まきが優先し集会は欠席がちとなり、急に農場で必要になったいろいろな雑用をしているうち、ついに全然出席しなくなっていた。

まもなく安息日はジムにとって平日と同じようになり、朝から晩まで働いた。そして月に1度、第2金曜日ごとに熱心なホーム・ティーチャーが農場を訪れるようになった。教会に出席しないことをユーモアを交えながらしかるのを聞いて内心気がとがめながらも、30分を我慢して過ごした。

ジムはホーム・ティーチャーたちがりっぱな人物であることを認めざるを得なかった。しかし、2人は農作業が週7日制で1日16時間の労働の仕事であるということに気づいていない様子だった。讚美歌を歌ったり、話をしたりする時間さえもないのだ。額に汗して（モーセ5：1参照）この仕事をすることで神を礼拝したではないか。さもないと家族は飢えてしまう。

ドライバーを荒々しく回したので止め金がポケット折れてしまった。小声でののしりながら代わりの止め金はないということはわかっていたが工具箱をませかえしてみた。止め金はなかった。ジムはうんざりしてドライバーを工具箱めがけて投げつけた。ドライバーはガチャンと音をたてて入った。

「どうにでもなるさ。」と彼は思った。今夜は交通機関が何もないんだ。

納屋のドアを力いっぱい押しあけると風がまともに当たり、ジムはせきとめていた水が流れるように降る雨の中に吸い込まれた。中庭を突切る時にまた上着はびしょぬれになり、背中に寒けがして思わず身振いた。

嵐から逃れてやっとのことで心地よいわが家に着きドアを押した時、ジムは家の中の様子がおかしいのにすぐ気がついた。それは本能的なものであった。何かが、どこかがおかしいのだ。

彼は急いで台所へ行った。椅子が倒れ、やかんがそのそばに転がっていた。そしてもうもうと湯気の立ちこめる中にぐったりと倒れていたのはまぎれもなく妻のメアリーであった。

永遠という中であつて時が一瞬止まったかのようであった。しばらくの間ジムは事態がのみこめなかった。体に一撃をくらったような気がした。急いであおむけにしたが妻は気を失っていた。倒れた時に打った左のこめかみの青黒いあざがはれあがり、熱湯をかぶった顔や腕には大きな赤い斑点ができていた。彼女は意識を失っており、閉じたまぶたは紫色に変わっていた。ジムはメアリーが死んでしまって彼のもとにもうもどつて来ないのではないかという言いようのない恐れを感じた。そして、メアリーの胎内で生を受けた赤んぼうも死んでしまったのだろうか？ 永久に……

その時、ジムは家にあるただ1つの輸送手段がこの最も必要な時に故障して納屋に放置されているのを思い出した。なすすべもなくあたりを見回し、そ

れから毛布を取りに走った。急ぐあまりメアリーをくるむ手は思うように動かなかった。どうすれば良いか考えようとしたが、気がひどく動転しているいろいろなことが頭の中をかけめぐった。

そうだ薬箱だ。何か役に立つものが入っているかもしれない。大股で小さな戸だなのところに行き、戸をあけると、気違ひのようになってビンやチューブの容器をひっかきまわした。すると指に小さな白いプラスチックのピンが触れた。「何だろう？」しばらく考え薬箱に投げもどそうとしたが、その一瞬ある記憶が心の中によみがえってきた。ふたをとり手のひらにきれいな油を1滴落とすとその記憶はますますはっきりよみがえってくるのだった。それは聖別された油だった。按手聖任されたとき、ウィリアムズ兄弟が自分にくれたものだった。今となつてはこの聖別された油はもう何の役にもたたなかった。なぜなら、トラクターが什分の一に優先し、農場の雑用が教会の集會に優先してしまっていたからである。

その時、一つの聖句が彼の頭をよぎった。「まず神の国と神の義とを求めなさい……。」(マタイ6:33参照) 彼、ジム・ファーガソンはそうしなかったのだ。彼は神と神権と教会とに果たすべき責任を怠ったのだ。そして、世界中で一番愛しているメアリーを裏切ったのだ。そして、何よりもジムはまさに生まれようとしている子供を裏切ったのだ。

メアリーはまだ意識を失ったままだった。ジムはあることをしなければならぬことを知っていた。ジムは手にしたビンを見つめビンを持って指をしっかりと組み合わせた。祈りだ。祈らねばならない。それも一心に。

ジムはメアリーのそばにひざまずいた。見知らぬ世界に半分行きかけているメアリーを連れもどさなければならぬと思った時、ふと恐れが心の中をよぎった。ウィリアムズ兄弟が6ヵ月前言った神権を使う時はまさに今なのだ。ジムはたまたま心細く

# 罰からのがれること

リチャード・L・エバンズ

感じ、頼もしいウィリアムズ兄弟の声を聞きたいと心がさげんばかりに願った。しかし時計を見ると、ホーム・ティーチャーが来る時間はもう1時間も過ぎていた。やはり、2人は嵐のために来れないのだ。ジムはひとりでやらねばならなかった。

ジムは、目に涙をいっぱいためながら灌油の儀式を執り行なうための言葉を思い出そうとした。しかし言葉は頭の中で前後し、どういう順序で言えばいいのかわからない。口に出して言おうとしたが、言いかけた言葉はつかえるだけであった。涙がゆがんだ顔を流れ落ちた。ジムは絶望的な気持で握りこぶしを頭の上にあげた。するとやっと声が出てきた。

「おお、神よ」彼は叫んだ。「どうか私の罪をお許し下さい。主よ申し訳ございません。どうか私を助けて下さい。どうか助けて下さい。」

ジムは身を震わせながら天をあおいだ。過去6ヵ月間の出来事が走馬燈のように浮かんできた。彼は地上で住むべき場所と生命を自分に与えてくださった神のもとに、もう一度たち帰る時が来たと思った。ホーム・ティーチャーは正しかった。真の教会にもどらなければならないのだ。教会にもどることが決心のいることはわかっていた。だがジムはメアリーののために、子供のためにやってみようと思った。

再びジムはメアリーの頭に手を按いて目を閉じ、口ごもりながら自信なく言い始めた。「メアリー・ファーガソン……」いや、違う。フルネームでなければいけない。メアリー・エレノア・ファーガソンこれだ。メアリー・エレノア・ファーガソン。

再び言おうと口を開きかけた時、ジムはメアリーの頭においてある自分の手にさらにもう2組の手が按かれたのを感じた。ジムの手に触れたその手は暖かく、頼もしい手だった。驚いて思わず顔をあげたジムの前にあったのは、ウィリアムズ兄弟の暖かくあわれみ深いまなざしだった。ジムのそばにひざまずいていたのは同僚のマーシュ兄弟であった。

**悪**を行わない理由について述べたプラトンの有名な言葉がある。「たとえ罪を神が許したまい、他人が知らないとしても、私は自分の中に存在する消し去ることのできない罪のために自分自身を恥じるに違いない。」すなわちこの言葉はもし人が威厳、自尊心、また人生の目的や律法を重んずる気持ちを持たずに行動するならば、因習や習慣、さらには戒めの及ぶ範囲までも越えた償うべきものが、人の心の中には本質的に存在するということを言っているのである。

人は創造主のかたちに造られたのであるから、自分自身を尊び、内的にも清く安らぎを得ることができるよう生活しなければならない。しかし1つの問題は、全体的に見て、我々には行ないの結果からたえず放棄されることへの願い、すなわち行ないから生ずる応報を回避しようとする一種の甘さがあるようだ。我々は過程に関する意識、つまり何が事態をひき起こすかということを考慮せずにいるのではないだろうか。

我々は道にはずれた生活をした結果生じた事態をいかに回避するかについてはよく心を配るが、いかなる生活をすべきかについてはあまり関心を示さない。ある意味で我々は、結果を考えずには行なうことのできない事柄がいくつあることを忘れている。不道徳な行為をした時には必ずその代償を払わなければならない。また正しい生活のよりどころを間違えた方向に変更すれば、不道徳は我々を荒廃させ、心を変化させてしまうだろう。我々は励ましを求め、例外もあるのだと言ってくれる人を望む。すべきでないことをしても、それでいいのだと言ってくれる人を求める。

しかし我々は思い出さねばならない。あるものが生み出されるにはその過程があり、結果が生ずるにはその段階があることを。それは習慣が定めたものでもなければ、ましてや戒めの定めたものでもない。ただ人間の天性——人は何なのか、なぜここにいるのか、何になり得るのか——だけによるのである。

この問題の唯一の解決策は、しなければ良かったと思うことをしないことである。生ずる結果を恐れなければならないようなものは初めからしない方がいい。「たとえ罪を神が許したまい、他人が知らないとしても、私は自分の中に存在する消し去ることのできない罪のために自分自身を恥じるに違いない。」

スポークン・ワード

1970年11月8日放送

## 日本東伝道部

### 石井一家の改宗(札幌支部)

佐々木姉妹とエヴァンズ姉妹は、その日、頭から雪をかぶり、寒さにふるえながら石井家のベルを押した。石井家の人々は、人なつっこい大きな目と、あたたか味のある輝くようなほほ笑みを浮かべて訪れたこの2人の姉妹に一目で好感を持ち、良い印象を持った。姉妹達は、手短かに福音の紹介をし、教会へ出席する様頼んで、辞去した。

彼女らが去ってから、石井家の話題は姉妹達のことに集中した。石井兄弟が一番不思議に思ったのは、何のためにこの寒さをもものもせず、戸別訪問までして教会のことを紹介して歩くのだろうか？動機は何だろうか？何故寄進を頼まなかったのでしょうか？それにしても、あの宣教師達は どうしてあんなに暖かく、親切なのであるのか？石井姉妹は、福音のメッセージが実際の理解し易いことに強い印象を受けた。そして生活の指針として、この宗教をもっと研究してみたいと思った。2人の子供達は、姉妹達が置いて行った美しいオリンピックマークの入ったパンフレットに興味を持ち、それに書いてある英会話のレッスンに出席してみたいと思った。この様にして、姉妹達の訪問は、石井家の全員に好奇心の種を心の中に蒔くという点で大きな効果をあげたのであった。

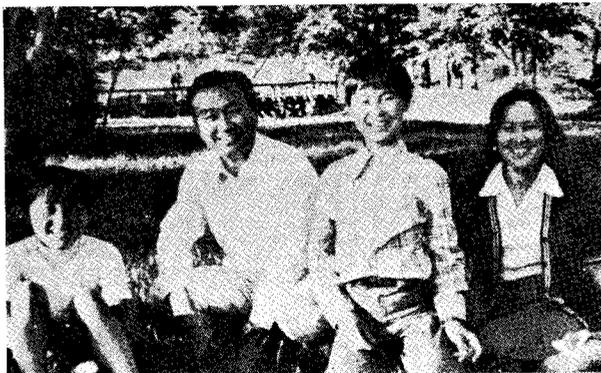
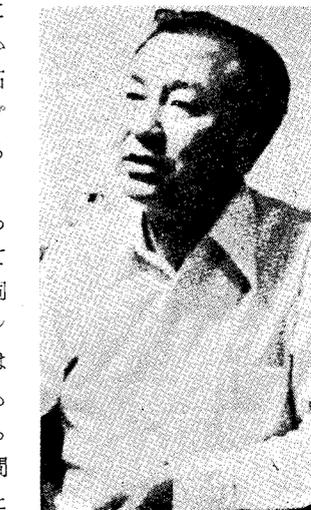
2日後、石井一家は揃って教会に出席した。8人の宣教師全員はこぞって歓迎した。その後石井一家は、日曜学校、MIA、英会話と出席し、毎日教会から確かなものを学んでいった。やがて一家で週1回の家庭集会を受けるようになって、だんだん教会のことが解って来ると、石井兄弟は重大な問題にぶつかった。彼は神の真実性と、宗教の意味を自分自身で見極めなければならなかった。宣教師の伝えるメッセージが真実か、偽りか、彼自身で定めなければならぬ。この問題は、宣教師が彼に代って決定出来る性質の問題では無く、彼自身で確信を得ることが大切なのであった。石井姉妹は、兄弟とは違ったやり方でよく理解した。彼女は宣教師達の告げるメッセージそのものより、それを告げる人達に強い印象を受けた。メッセージをもたらした使者自身の態度そのものもまた、メッセージの真髄を語っているからである。

家庭集会と平行して、3カ月間の石井家の求道期間中いろいろなフェロウシップ活動が計画された。月寒のスロープで開かれたチュービング(タイヤのチューブに乗って雪の上を滑る競技)、ジギスカンピックニック、スポーツ会、ポットラック夕食会等は、すべて宣教師達と、石井一家の間の信頼と尊敬と愛を深め、一層親しくなった。一旦こういう親しみが生まれると、単に宣教師と求道者の教師対生徒の関係よりもっと深い信頼が生まれ、種々の個人的な問題や不安、引込思案なども、打ち明け易くなるものである。このようにして、8人の宣教師全員がその家族の信頼を得て、今や改宗

へと導く強い影響力を及ぼす迄になった。その頃伝道部長宅で開かれたファイアサイドに招かれた石井兄弟は、遂に全力をあげてバプテスマを前提とした勉強を始めることを決心した。

家庭集会も一段と熱がこめられ、特に石井兄弟に重点を置いて熱心な質疑応答が進められた。同時に彼は毎晩夜半過ぎ迄モルモン経を読んだ。或る時は、彼の目は疲れ切って、もうこれ以上1行も読めないという状態に迄頑張った。タバコと酒は、彼が長年の間親しみ、1日として欠かしたことはなかった。実際彼は家庭集会が始まってから最初の3回位は、集会中さえも依然としてタバコも酒も続けていた。森永乳業の管理職にある立場上、お客にお茶、タバコ、酒で接待するのは、彼の重要な仕事の一部でさえあった。彼は常に誘惑にさらされていた訳であった。

バプテスマを1週間後に控え、石井兄弟は、益々熱心に勉強し、祈り、またかつて経験のない程深く反省し熟考した。彼の精神状態は極度に緊張していた様子であった。その時になって、彼は足指が化膿し高熱を出して床についた。バプテスマの2日前、彼は床にしている間も、断え間なく問題と取り組んでいた。或る夜、彼は遠くの方で、聖典の表紙に彼の罪が1つ1つ書き出され、そしてゆっくりと消されて行くのを見た。彼がこうして、努力して、一步一步登りつめ、そして遂にバプテスマという1つの頂点に到達し得たことに、石井兄弟自身はもとより、彼の家族の喜びは大きかった。その日曜の早朝、石井兄弟は水の中から出て来た時、彼の肩に今迄のしかかっていた重荷がすっかり除かれているのを感じた。彼は証詞を見出し出した。



石井一家は、彼等の生活の中に大きな変化がすでに起こったのを感じている。石井兄弟は、かつては、毎晩のように友人達と夜半過ぎ迄酒を飲んで過ごしたこともあった。現在は、勿論飲酒はきっぱり断って、家族とのだんらん喜びを見出し出している。彼は先を見、彼にとって家族が一番大切なものであることがわかった。彼は家長の誇りをもって、家庭の夕べ、家族の祈りを司会する。彼の

妻は、今迄より一層彼を理解し、子供達は父親を非常に尊敬する。会社に於ては同僚に対して、愛と理解と、謙遜な態度で、自制しながら接する様になった。

## 日本西部伝道部のページ

ニクソン大統領はモルモン教会と教会の教える生き方に深い尊敬と賞讃の意を表明した。

西部伝道部の宣教師ロバート・C・ハンツマン長老の実兄ジョン・M・ハンツマン兄弟はこのたび、ニクソン大統領より特別補佐官に任命された。当教会員で初めてこの任についたハンツマン兄弟を追ってみよう。

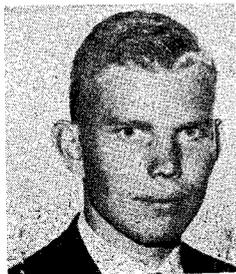
ハンツマン家は6代にわたりユタ州に住むモルモン一家であるが、後にカリフォルニア州に渡った。そして1970年にハンツマン兄弟は厚生福祉省の副長官に任命され、ワシントンD. C. に移った。それから6カ月後に34歳でこのハンツマン兄弟は大統領特別補佐官に任命されたのである。ハンツマン兄弟はホワイトハウスの人事、予算、行政問題を担当している。ニクソン大統領と接している彼に近況を尋ねてみよう。

「大統領はいつもモルモン教会と教会の教える生き方に対して深い尊敬の念と賞讃の意を表わされました。」

「ほんの2～3週間前、ニクソン大統領は、『合衆国の中で最も優れており、また最も生産的な教育制度の一つはモルモン教会が運営している組織である』と話されました。」

「私はある古参の大統領補佐官から、『あなたは自分の一を払っていますか』と尋ねられました。その人は教会員ではありませんでしたが、その人はきっと、私がもしこの約束を守っているならば、大統領に対してもあらゆる約束を守るだろうと思ったにちがいありません。幸いにも、私は『はい』と答えることができました。」

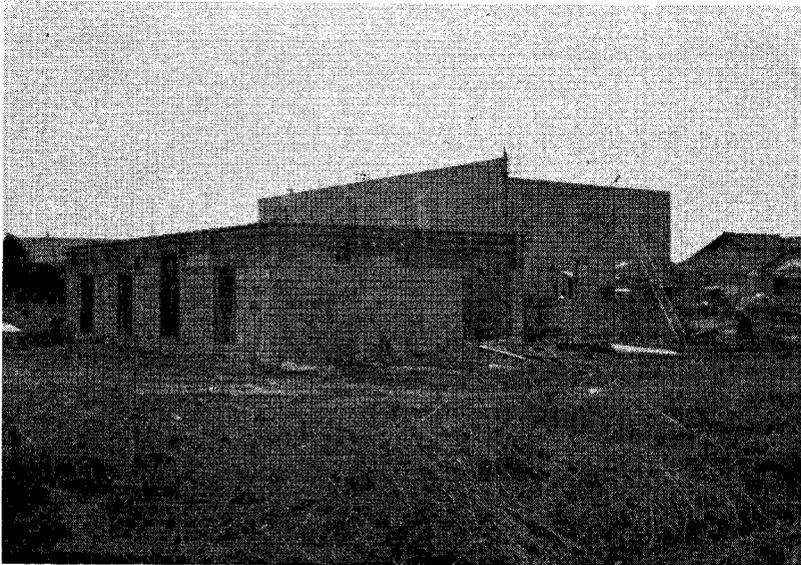
ここ、ワシントンには、もしその人が活発なモルモンであれば、ためらったり、物事を中途半端にしたりしない人として頼りにされるという強い風潮があります」と語った。



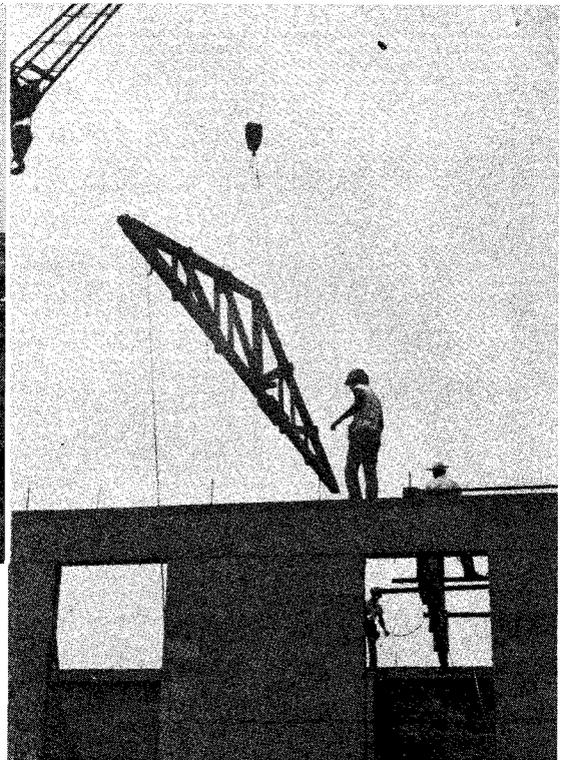
日本西部伝道部で伝道中のハンツマン長老



ニクソン大統領は彼の特別なアシスタントであり、また献身的な教会員であるジョン・M・ハンツマンと会談しました。



完成間近の松本支部全景



建築に励む建築宣教師と兄弟達

## 待望のチャペル オープンハウス近づく！

### 日本伝道部

長野県松本市，アルプスの山々に囲まれたこの町に，白亜のチャペルがまさにできあがろうとしているのです。聖徒達の長い間の望みがようやくかない，今年の四月，まだ寒さが身にしみる日にくわ入れ式が行なわれ，建築がはじまりました。建築がはじまって以来，暑い日も寒い日も，力強い平林支部長のたゆまぬ励ましと模範，建築宣教師，会員達の必死の働きとによって，待望のチャペルが刻々と完成へ近づきつ

つあるのです。

その建築中の建物において，9月24日，松本支部主催のバザーが開かれました。晴天に恵まれたその日，会員達によって準備された約2,000点の品物が即売され，総売上げ320,000円，純利益280,000円という前例のない好成績をおさめました。兄弟も姉妹も全力を投じたバザーを終えた後に，準備と

この成功を通してたかまった喜びと証詞を述べられました。すべての持物を売り尽くした建築宣教師がその喜びを語られた時に，すべての人々の頬に涙が伝っていました。

これらの尊い祝福，建築とバザーを通して主が松本の地とそこに住む人々に目をむけておられることを，松本の兄弟姉妹達そして私達も感じることができて心より感謝しています。



大成功をおさめたバザー

# 祝福される日本

## 東京ステーキ部四半期大会

東京ステーキ部の四半期大会が去る9月18、19日の両日行なわれ、タナー副管長が当大会に臨席された。4月の大会のリー副管長に引続いての大管長会の来日である。8月にはモンソン十二使徒を迎えての特別大会も開催され、特に大管長会の第一副管長、第二副管長が同じ年に来日されるという祝福を受けた事は、日本の教会史上かつてなかった事である。今私達は日本の上に神の御手が大きく開かれ、祝福されていることを感じずにはいられない。私達はその祝福に応えるために、より一層の飛躍が望まれるのである。



